

カトリック大阪高松大司教区

平和旬間

開催報告集

平和旬間 2024-10 Days for Peace

いまこそ平和を

Peace, now!

～苦しむ人びとの声に耳を傾け応えていこう

Listen & respond to the sufferers～



平和行事への感謝と励まし。

大司教・枢機卿 前田万葉

八月や平和旬間永遠(とわ)にあれ

大阪高松大司教区内のほとんどの教会で、それぞれ工夫を凝らしながら、平和のために祈り考え行動を伴った取り組みが行われたことに、心から感謝と敬意を表します。各教会での平和活動は、平和の大切さを再認識させ、希望と勇気を与えました。

特に、戦争体験者の証言や子供たちの参加は、未来への大切なメッセージになったことでしょう。「戦争は終わらない」とか「平和は訪れない」といった悲観的なそして困難な状況の中でも平和を願い行動する姿勢は素晴らしいことです。

この平和への絶えまない姿勢さえ続けば、平和への信望愛が実を結び、必ず平和な世界が訪れることを強く信じています。

2024 年平和旬間
日本カトリック司教協議会会長談話
「無関心はいのちを奪います」

1. 79 年前の「過ちは繰り返させぬから」の誓いは

人類の歴史は、過ちの連続であり、過ちを顧みることによって前進を目指す道のりでした。79 年前、第二次世界大戦末期に原爆が投下されたことで、多くのいのちが奪われた広島市の平和公園には、戦後に設置された原爆死没者慰霊碑があります。そこには「安らかに眠ってください。過ちは繰り返させぬから」と記されています。碑文が起草された時、この誓いの言葉の主語は「わたしたち」だと考えていたと言われます。人類史上初めてとなる核兵器の使用という現実を目の当たりにして、わたしたち「人類は」、「過ちは繰り返させぬから」と誓ったのです。しかしそれから 79 年が過ぎた今、世界の現実には、果たしてわたしたち人類が誓った姿となっているのでしょうか。

2. 終わりなき無防備な市民の犠牲

無防備な市民を巻き込んで、いのちを暴力的に奪い去る出来事は、世界各地で頻発し、加えて一度始まってしまうと、その終わりを見通すことができません。ロシアによるウクライナへの攻撃で始まった戦争は、2 年半が経過しても終わりへの道が見えません。パレスチナとイスラエルの対立は泥沼化し、ガザでは 3 万 7 千人を超える人たちのいのちが奪われています。アジアにおけるわたしたちの隣人の状況を見ても、ミャンマーではクーデター後の混乱はまだ続いており、すでに 3 年を超えて、平和の道筋は見えていません。平和を求めて声を上げるミャンマーのカトリック教会は、暴力的な攻撃を受けています。

3. 無関心のグローバル化

今年の新年の世界平和の日のメッセージで、教皇フランシスコは、「人工知能 (AI) と平和」をテーマとして掲げ、こう記しています。

「昨今、わたしたちを取り巻いている世界に目を向ければ、軍需産業にまつわる深刻な倫理問題は避けて通れません。遠隔操作システムによる軍事作戦が可能になったことで、それらが引き起こす破壊やその使用責任に対する意識が薄れ、戦争という重い悲劇に対し、冷淡で人ごとのような姿勢が生じています」

世界中でいのちに対する暴力が横行しているにもかかわらず、無関心のグローバル化は激しさを増し、すべてはスクリーンの先にある「人ごと」のように取り扱われています。教皇が指摘されるように、人工知能の出現によって、その「人ごと」感が強まっています。いのちを奪われているのは、わたしたちの兄弟姉妹です。暴力にさらされているのは、神のたまものであるいのちです。そしてその暴力を生み出しているのは人間であり、それを助長しているのは、わたしたちの無関心です。

4. 「希望の巡礼者」への招き

いのちを生きる希望を多くの人から奪い去り、絶望の淵へと追いやる現実を目の当たりにして、教皇フランシスコは、来年、2025 年の聖年のテーマを、「希望の巡礼者」と決めました。聖年を告知する大勅書のタイトルを、聖書の言葉を引用して、「希望は欺かない」(ローマの信徒への手紙 5 章 5

節参照)と定めた教皇は、複雑で困難な現実の中にあっても、希望を失うことのないようにと励ましておられます。

教皇は、教会共同体が時のしるしを読み取るように勧め、総合的な人間開発の視点を持ちながら、人間の尊厳がおとしめられるような状況にある人たちに、いのちを生きる希望をもたらす共同体となるよう求めています。そのために、巡礼とは、単に個人の信心の問題なのではなく、共同体としてともに歩む中で、教会が社会にあって希望を生み出し、歩みの中で出会う人々に希望をもたらす存在となる旅路であると指摘されます。

5. 神の定めた秩序の妨害

教皇聖ヨハネ 23 世の『パーチェム・イン・テリス—地上の平和』の冒頭には、「すべての時代にわたり人々が絶え間なく切望してきた地上の平和は、神の定めた秩序が全面的に尊重されなければ、達成されることも保障されることも」ないと記されています。したがって、神の定めた秩序の実現を妨げる出来事は、そのすべてが平和の実現を阻んでいると教会は考えます。もちろんその筆頭は、神からのたまものであるいのちを暴力的に奪う戦争や紛争であることは間違いありません。紛争など武力の行使という暴力によって故郷を追われ、難民や国内避難民となった多くの人たちの存在から目を背けることはできません。

しかし同時に、神の定めた秩序の実現を阻む状況とは、武力の行使だけにとどまりません。たとえば、世界で多くの人々の日常生活を困難にしている、環境破壊に伴う地球温暖化や気候変動の課題です。劇的な環境破壊のために、長年住み慣れた故郷を捨てざるをえない人たちがいます。経済状況の悪化や政治的立場からの迫害など、さまざまな理由で故郷を後にする人たちもいます。経済的に困窮する人たち、人種、信仰、生活のあり方に対する偏見によって差別される人たちもいます。さまざまな形態での人身取引によって、尊厳と自由を奪われている人たちもいます。ほんの一部に過ぎませんが、これらはすべて、神の秩序の実現を妨げている、人間の尊厳をないがしろにする社会の現実です。

6. 平和を求めるシノドスの旅

教会は今、シノドスの旅路をともに歩もうと呼びかけています。わたしたちの歩んでいるシノドスの旅は、そういった困難の中にあっても、もっとも弱い立場にある人々を兄弟姉妹として、旅路を歩む仲間とすること求めています。互いに耳を傾け合い、互いに支え合い、ともに歩むことによるのみ、わたしたちは旅の目的地、すなわち御父の望まれる世界の実現へと到達することができます。絶望の淵にある社会の中で、教会は希望の巡礼者であり続けましょう。

わたしたちは過去の過ちに謙遜に学び、その過ちを繰り返さないように努めることができるはずで、幾たびも目撃してきたいのちに対する暴力を止めることができるのは、わたしたち自身です。

平和旬間にあたり、この世界で起こっているいのちに対する暴力を止め、神の望まれる秩序の実現のために、総合的な視点から取り組みを強めていくよう呼びかけます。無関心はいのちを奪います。

2024 年 7 月 19 日
日本カトリック司教協議会会長
カトリック東京大司教 菊地 功

内 容

日本カトリック司教協議会会長談話「無関心はいのちを奪います」

- ◆姫路地区 西ブロック合同開催（網干・たつの・飾磨・相生・赤穂）
姫路 佐用 仁豊野 豊岡
東ブロック合同開催（加古川・西脇）
- ◆神戸地区 北須磨 垂水 洲本 たかとり 兵庫 鈴蘭台
三田 神戸中央 住吉 六甲
- ◆阪神地区 芦屋 甲子園 夙川 宝塚 仁川 伊丹 園田 尼崎
- ◆北摂地区 池田 日生中央 箕面 高槻 茨木 千里ニュータウン 吹田
- ◆大阪北地区 関目 大東 門真 香里 大阪梅田 枚方
- ◆大阪南地区 大阪田辺 藤井寺 堺 泉北 金剛 布施
枚岡 八尾 住之江 なみはや 玉造 生野
- ◆岸和田地区 岸和田 和泉 紀泉ブロック合同開催（岬・泉南・紀の川）
貝塚 泉佐野 熊取
- ◆和歌山地区 御坊 和歌山紀北 新宮
- ◆愛媛地区 中予ブロック合同開催（松山・道後） 八幡浜
- ◆香川地区 桜町 番町 坂出 伊予三島
- ◆徳島地区 徳島地区合同開催（鳴門・徳島・阿南）
- ◆高知地区 中島町 安芸 江ノ口 赤岡 中村

「平和旬間報告」から見えたこと、感じたこと 「平和旬間報告集」編集スタッフ



◇姫路地区 姫路西ブロック

網干教会（たつの分教会）、飾磨教会、相生教会、赤穂教会

1 開催日/場所/参加人数

開催日：8月10日（土） 場所：カトリック相生教会 参加人数：約30名

2 企画の具体的な内容

今年度より共同司牧に加わってくださった教区司祭のホルヘ・ソーザ神父様から講話をいただき、いくつかのグループに分かれて感想を分かち合った後、ミサを捧げ、しばし交流の時間を過ごしました。

3 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

特別な目的などはありませんでしたが、毎年この機会を大切なものとして、しかし、落ち着いた雰囲気の中で過ごせるよう心がけました。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

ホルヘ神父様が、出身地であるニカラグアの複雑な内情についてお話してくださり、暴力が飛び交う真っ只中で生活させられる事が、いかにあってはならない事がリアルに伝わってきました。そして身近な所にある不和や抑圧、自分自身の心にある憎しみなども同じ暴力であり、それらを抑えたり解決するためには、まず祈りが欠かせないことも伝えてくださり、心改まる思いがしました。

5 参加者の思いや感想

参加された方々にも講話から出るリアリティが伝わっていたのか、特にご高齢の方から戦時中や終戦直後の体験が話され、貴重な分かち合いの時間となりました。また、違う小教区の方との再会の機会にもなり、近況を話したり、思い出話に花を咲かせたりしていました。



相生教会外観と聖堂

◇姫路地区 中ブロック 姫路教会

1 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) / 姫路教会聖堂 / 81名

2 企画の具体的な内容

- ・教会入口掲示板に平和旬間ポスターを貼り、ホームページ、週報、広報「風」を通して、教会内外に呼びかけた。
- ・8月11日(日)10:00～ 平和祈願ミサ：司式司祭 姫路教会 ジョニー トンバ ディバ神父
ミサの中で、当日までに皆で書いた平和へのメッセージカードを、子ども達とともに奉納し、平和を祈った。
- ・平和祈願ミサの後11:15～ 「平和を祈ろう—詩と歌で綴るコンサート—」を行った。
歌：林 裕美子 オルガン：丸山 聡美 朗読：教会学校の子ども達・青年

当日のプログラム

	朗 読	歌
1	マタイ5章9節	グレゴリオ聖歌「アヴェ・マリア」
2	アフガニスタンで暮らす17歳・リアーナの詩	G. フォーレ作曲「サルヴェ・レジナ」
3	マザーテレサのことば	G. フォーレ作曲「祈りに」
4	沖縄県・小学2年生の詩「こわいをして、へいわがわかった」	新垣壬敏 作曲「平和の歌 (ヌチドウ タカラ)」
5		高田三郎 作曲「平和の祈り」

3 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

- ・ひとりでも多くの人に教会内外から参加していただき、朗読や歌を通して、皆で祈りを捧げたいと願い、企画した。
- ・詩や歌を選んでいくにあたり、出演者の林裕美子さんと打ち合わせを重ねて、子ども達にとっても、大人にとっても、わかりやすい形を取りながら、平和を祈る集いになるよう配慮した。
- ・評議会で話し合いを持ち、平和旬間行事を皆で作り上げることを再確認した。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ・快く出演を引き受けてくださった出演者の皆様、子ども達に感謝している。
- ・コンサートには81名が参加。平和祈願ミサにも多くの参加があった。一人一人の心の中に平和への願いが深まっているように感じた。
- ・評議会メンバーで役割を分担していたことに加え、大勢の方の協力があって、予定していた時間に始めることができた。
- ・詩の朗読と歌との間に、出演者の林裕美子さんが説明を入れてくださったので、感動が深まり、まさに祈りの会となった。
- ・昨今はコロナ禍で行事が減っていたが、久しぶりに皆で心を合わせて一つの行事に取り組めて、大変良かった。
- ・これからも平和を祈り続け、平和への一歩を踏み出す活動を進めていきたい。

5 参加者の思いや感想

- ・初めて参加させていただき頂きました。厳かな中にも平和への力強い朗読、歌唱によるメッセージ、心に響きました。人種、国境を越え、地球に暮らす人間として、平和を祈らずにはいられません。M.A
- ・平和旬間行事、とっても良かったです！感激しました！私はミサの時から、2列目に座って、力が入っていました。林裕美子さんの、平和への強い思いの込められた歌に、涙が出ました。丸山聡美さんのすばらしい演奏も、子ども達や青年の朗読も、心に響きました。まだ世界中で戦争は続いています。これからも平和を祈り続けたいです。 A.I
- ・八月はやはり日本は戦争で亡くなった人、原爆で亡くなった人、戦場となった沖縄の人…しかし今も世界中で戦争があり、今でも命は失われています。絶対に戦争はあってはならないと、歌と詩の中で感じました。
- ・すばらしい林さんの歌と丸山さんのオルガンで、心が洗われるようでした。
皆の心が一つになり、平和を実現できますように。
- ・とても心にしみる平和旬間行事でした。平和についてゆっくりと考えようと思いました。残念なことは教会行事に、いろんな事情もあると思いますが、なるべく参加しましょう。何か得るものがあると思います。
- ・皆と共に言葉を味わい、祈りの込められた歌声に耳を澄ませながら、愛、優しさ、力強さが一体となって伝わってくる貴重なひとときでした。
又チドゥタカラ…生命が大切にされます様に。祈りが届きますように。
小さな子どもさんから沢山の方々のご協力に心から感謝でした。
- ・詩と歌のコンサート、良かったです。透き通るような歌声には感激しました。
あんなに間近で聴けるのはもったいないような思いでした。又、詩も良かったです。
中でも、小学生が読んだ詩が孫と重なって素直な感情が伝わってきてウルウルでした。
ありがとうございました。その後の茶話会では、意外な方との出会いもあり、共通の故人の方を偲びました。ホントに良いひと時を過ごせました。感激！



◇姫路地区 中ブロック 佐用教会

1. 開催日/場所/参加人数

開催日：8月6日（火）、9日（金）、15日（木）

場 所；カトリック佐用教会

参加者；27名（延べ数）

2. 企画の具体的な内容

- 『子どもとともに平和を祈る』を唱え、教会の鐘を鳴らす。

8月 6日（火）、8時15分～

8月 9日（金）、11時02分～

8月15日（木）、12時00分～

- 分かち合い『非暴力という武器』

8月15日（木）午前10時からの聖母の被昇天ミサに引き続き、ジーン・シャープ著「独裁体制から民主主義へ」の内容について分かち合う。

3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

みなさん『ジーン・シャープ（1928～2018）』さんをご存知でしたか？ という問いから始まった分かち合い。・・・私自身、数年前まで知りませんでした。

先ずは、ジーン・シャープさんが独自の非暴力理論を体系化し、世界各地の民主化運動に多大な影響を与えた方であることを知る。そして、拡大する暴力の連鎖を止める一歩を、私も踏み出せたらと願っています。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

広島・長崎の原爆の日と終戦の日に教会の鐘を鳴らすことは、小さな教会でも出来る平和アピールの一つだと思います。

5 参加者の思いや感想



◇姫路地区 中ブロック 仁豊野教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月4日(日) 聖フランシスコ病院修道女会聖堂
平和祈願ミサ 146名 DVD鑑賞その他 72名
2. 企画の具体的な内容
 - ① 行事前にする事
2024年平和旬間の趣旨文をミサの中で読み合わせる、核なき世界基金のテーマソング「平和の家族」の歌練習、「平和のためにできることは何?」と問いかけ、用紙に記入し、掲示する。
そのために、世界や日本の現状の書かれた新聞記事などを掲示する。
(ガザ、ウクライナ、核兵器、日本の軍拡など)
 - ② 地上の平和 パーチェム・イン・テリスのDVDを鑑賞し、教皇ヨハネ二十三世の訴える「真の平和は相互の信頼の上にはしか構築できない」(軍備の均衡が平和の条件ではない)を理解する。
 - ③ 正義と平和全国大会の「大軍拡に反対する」の報告文を読み合わせ、軍事力に対して考える。
そして、平和のために何ができるのか各自考え、行動する大切さを理解する。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
 - ・世界的な戦争にさえ発展しかねない現状を踏まえ、今こそ真の平和とは何か、そのために私たちにできることは何か考え、行動する大切さを伝える。(無関心にならない)
 - ・計画を早くから始め、歌で声を合わせたり、読み合わせをしたりして、連帯を感じる。
 - ・社会活動委員会だけで担わず、役割分担をして活動し、共同体としての喜びを感じる。
 - ・一人でも多く参加できるように、会場の広いところにし、プログラムも配布し、ともに考えたり、歌ったりできるようにする。
4. 平和旬間を終えて全体を通して気づいたこと、良かったこと
 - ・教皇ヨハネ二十三世の訴える平和とはどのようなものかを知り、無関心にならないで、まず真実を知ること、また相互の信頼関係が大切と思った人が多かった。
 - ・核兵器廃絶の思いは、今年「平和の家族」の歌詞に想いを託したが、味わい深かった。
 - ・「平和のためにできることは何?」が深められず、今後の課題である。
 - ・ベトナム人信徒への配慮が足りず、ベトナム語での記載や連携が必要と思った。
5. 参加者の思いや感想
 - ・「いまこそ平和を」一苦しむ人びとの声に耳を傾け応えていこうの趣旨文に感動した。
みんなで取り組むこと、ともに考え行動していくことの大切さをしみじみ感じた。
 - ・DVDが良く、分かりやすかった。改めて、教皇ヨハネ二十三世の功績を思い返した。
 - ・平和祈願ミサに向けて、歌の練習をみんなに呼びかけ、毎日曜日してよかった。
 - ・プログラムに、ピース9のニュースレターの記事やガンジー「非暴力は人間に与えられた最大の武器であり・・・」や、キング牧師の言葉「非暴力は勇気ある人々の生き方である・・・」があり、心に残った。
 - ・分かち合いの場が少しでもあると、もっと深められたのではないかと思います。
 - ・「平和のためにできることは何?」の記載されたものを生かして、今後発展していく企画を希望します。



◇ 姫路地区 中ブロック 豊岡教会

1 開催日・場所・参加人数

8月4日(日) 豊岡カトリック教会内「多目的ホール」、参加者 11名

2 企画の具体的な内容

「ともに語ろう！ 世界平和への誓いを！」

- ① 「お父さんへの千羽鶴」の DVD 鑑賞会
- ② DVD 鑑賞後、平和についての分かち合い

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

昨年、皆で鑑賞した DVD 作品は時間的に 45 分間と少し長かったこともあり、今回はできるだけ皆の分かち合いの時間を長くすることを重視して作品を 15 分間と短いものを選びました。

作品そのものは比較的新しく、小学生を対象に製作されているということで、肩の凝らない内容だと思えます。ほとんど大人の方が中心でしたが、小学生一名の参加によって発言を期待するが、かなり緊張して黙ってしまいました。自由に気楽に発言できる雰囲気をつくるということはかなり難しいことです。

「特攻隊」というテーマを選んだわけですが、はっきり言ってこれらの歴史問題はどうしても捉え方や立場の違い解釈の仕方によって、戦争そのものを美化し肯定される社会的な空気を感じることもあります。

平和教育を根底に考えるリベラルの立場の側からすれば、生命の尊厳を基本に考えれば「特攻隊」そのものを否定的に捉えてしまう立場として絶対悪だとたしなめてしまう。いわば後者である私自身にとって、政治的に中立の立場で話をまとめることがとても至難の業だと感じてしまったのです。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

かねてより兄弟姉妹とともに、聖書を読みながら日常的に「戦争」と「平和」について考える機会を多く持たたいと考えていました。

「戦争と平和」というテーマを皆で分かち合うことは日々の生活の中で常に問題意識として捉えながらふーと自然に口に出てしまうことばが常に「平和」的な視点であるならば「分かち合い」とは、ほぼ自然体で自身の言葉で表現すればいいのですから、ちょっと気負い過ぎて評論家のような調子で語る必要などないのです。要するに豊岡小教区内の兄弟姉妹の「日々のかかわり」そのものが「平和」的な行為であるならば今のわたしたちは平和的なコミュニティーを個々の力で培っており築いているのだと実感することができます。これからの「分かち合い」はもっと気楽にリラックスした共同体のなかで行なえるそんな空気にしていきたいと望んでいるのです。

5 参加者の思いや感想

- ① 「特攻隊」というテーマを通じて、映画や、テレビのドキュメンタリーで特集が組まれており、見聞きはしていても、所詮、直接時代の空気に触れたこともない世代の私たちにとって、戦後、平和教育を受けて育ったにもかかわらず、未だ戦後の政治体制を受け入れることができずに彷徨える亡霊のように戦前の美意識に固執している保守勢力が若者たちにプロパガンダしようと画策しているのです。「おとうさんの千羽鶴」という現在の文科省の息吹を感じさせるような作品を選んだことをもう一度しっかりと見直す必要があります。
- ② 皇国史観とは国家の礎として国民を扇動して、「天皇陛下のために、自らの命をお捧げして国を守り抜くのだという」天皇を神のように崇敬して、天皇中心とした国家を建立する。
そもそも国民の命を軽んじてでも護るべき国とは一体いかなる国だったのか？多くの国民の血と涙を国家の覇権行為の犠牲にしてまで守るという言葉をも美意識として若者に洗脳した国家統制の在り方、もういちど歴史を学び直す良い機会だと思います。

- ③ あくまでも、あの時代を経験したことが無い私たちが、父親とか戦争体験者の話を聞くことによって戦争の悲惨さを知ることができるのですが。ほとんどの体験者のなかには精神的トラウマをかかえて思い出したくないそして語りたくないという人もいます。

二度と味わいたくない苦しさ、戦友のことを父はあまり語ろうとしなかったのです。戦争を美しい言葉で飾ろうとはしなかったのです。「何しろ戦争の記憶があることは、生き延びたということだから……」当然戦争のことなど思い出したくも語りたくも無い人がいても不思議ではないと思います。

- ④ 美しい言葉で天皇を賛美し、崇敬する若者たちが特攻機のなかでこれから自分が敵艦にむかって死に行くという姿をはたして誰が見たというのでしょうか？ 見てはいないにもかかわらず同じような体験をしたかのように、もっともらしく同情を誘うかのような偽善者のようなことばを誰が信じるのでしょうか？

とにかく一部の戦前回帰することを望む政治団体にとって、自分たちの想像したことを美しい言葉でただ脚色しただけではないでしょうか。



◇姫路地区 東ブロック 加古川教会

1 開催日・平和祈願ミサ 2024年8月11日(日) 加古川教会、西脇分教会、参加人数・約120人

2 企画の具体的な内容

- ① 平和祈願ミサ:司式司祭:レネ 神父
ベトナムコミュニティも合同で一緒に参加して、ミサの中で平和についての特別な説教をしていただいた。
- ② 期間中に信徒が書いた「平和への祈り」メッセージカード82枚をミサの中で奉納した。
後日、信徒会館に掲示して分かち合っている。掲示したメッセージの中から選択して今後のミサの中で共同祈願として称える。
- ③ 祈願ミサの共同祈願の中で平和についての特別な平和の祈願を唱えた。
- ④ 釜ヶ崎の「出会いの家」に猛暑への支援として、各家庭からうちわを持ち寄り、平和への願いを込めて「平和」と絵手紙を記してうちわ 200本をカンパ支援金と共に贈った。
- ⑤ 難民移住者支援のため、シナピス工房で難民の人達が作製した作品の販売に協力した。

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

皆が参加するにあたって、東ブロック平和旬間テーマを「お互いを尊重し合い、分かち合い、皆が安心して暮らせる世界を目指して努力しよう」と定め、共有するためにポスターに掲示して、参加する平和旬間行事の意識を高めた。

言語は英語で:「let's respect each other, help each other, and strive for a world where everyone can live in peace」

ベトナム語で:「Chúng ta hãy tôn trọng lẫn nhau, giúp đỡ lẫn nhau và phấn đấu cho một thế giới nơi mọi người có thể sống trong hòa bình 」と掲示した。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- * レネ神父様による平和祈願ミサの中で、1982年にヨハネ・パウロ2世が訪日して、79年前原爆被爆被災を受けた広島・長崎を訪れた際に、平和旬間の起源となった「平和アピール」を聞いて平和に対して強く感動されたことを話された。また神父様の母国フィリピンでの戦時中の占領時において、祖父母の体験談を聞かされたことを話された。当時現地は大変な食糧難に陥っていてサツマイモを食料としていた。ある夜、日本兵が現地人の所に来て「イモコウカン」と言って彼らの持ち物とサツマイモと交換して欲しいと懇願され、分かち合って互いに生き延びることができたと聞かされ、分かち合いは神様からの贈り物だと再認識できた。
- * 「平和への祈り」カードの作成にあたり、7月から事前に始め、信徒の対象を加古川教会の他に西脇分教会、ベトナム外国人、アグネス会の子どもにもお願いして幅広く参加してもらい、平和について意識を高めた。
- * 難民移住移動者の支援ため、シナピス工房の製品を販売して全品完売出来て、難民移住移動者への理解が深まった。

5 参加者の思いや感想

- * 平和の実現に対して皆で協力・努力する意味で、平和のうちわ作製、メッセージカードの作製、そのカードの掲示等に、アグネス会、ベトナムコミュニティ、マザーテレサ共労グループ等、更には教会の外部にも呼びかけ、多くの協力が得られて活動の一体感を実感できた。
- * 平和旬間行事は、「平和を希求する」「平和の大切さを伝えていく」為の大切な行事になっている。平和旬間を迎える度に平和の実現のために命の大切さを強く実感するが、常日頃から平和の実現を意識して行動することが大切だと感じた。



◇神戸地区 西ブロック 北須磨教会

- 1 開催日/場所/参加人数 8月4日(日) /北須磨教会 1階ホール/約40名
- 2 企画の具体的な内容 映画『ひろしま』上映会
ミサ後1階ホールにて、昭和28年公開の日教組プロ制作、関川秀雄監督による映画『ひろしま』を上映し、ミサ参加者の多くが残って鑑賞した。映画の感想を9月の広報誌『きたすま』に掲載した。準備時間の短い中、ミサ・広報誌でのお知らせ等何度も呼びかけ、多くの方が残ってくださった。また社会活動委員会の方々がおにぎりなどを用意して下さるなどの協力も得られた。
- 3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
当初、具体的な行事計画が全く浮かび上がらず、祈りのみの計画で心を痛めていたが、青少年委員会から映画上映の話が出てきて、皆に相談したところあれよあれよと計画がまとまった。教会全体に何度も広く呼び掛けることと、地域に向かって掲示板に掲載した。戦争のニュースが当たり前になりつつある世界で、戦争の悲惨さ、平和の大切さを再度心に焼き付けたいと思った。
- 4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
コロナ以来、大勢での行事がなくなる中、声をかければ多くの方が賛同し、参加して下さり、共感して下さることに勇気を戴いた。
- 5 参加者の思いや感想(広報誌から抜粋)
☆映画『ひろしま』を観る機会に恵まれたことは幸運でした。戦争の恐怖や苦悩、苦痛をもっとより良く理解するために世界中のリーダー達を含む全ての人々に観て欲しいと思います。(30代男性)
☆小学生の時、家族旅行で広島を訪れ原爆ドームを見た。つい最近、「原爆ドーム」の元の名前は「広島県物産陳列館」であったことを知った。映画の中でも学生が「外国人の方に知っていただくより前に、日本人に、この教室にいる人たちに知ってもらいたい」のセリフが印象に残った。私たちはもっと「知る」ことをしていかなければならないと思った。(60代女性)
☆私は「平和のために何ができるだろうか」と考えました。広島平和記念式典被爆79年の「平和の誓い」で子どもたちが呼びかけていました。「願うだけでは平和は訪れません。色鮮やかな日常を守り、平和を作っていくのは私たちです。一人ひとりが相手の話を聞くこと、「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと、仲間と協力し、1つのことを成し遂げること。私たちにもできる平和への一歩です。広島を共に学び感じましょう」子どもたちの呼びかけが心に染みしました。平和は作っていくもの。8月6日主の変容から15日聖母の被昇天の平和旬間にせめてノベナの祈りを捧げようと強く思いました。(70代女性)
☆イエズス・マリア・ヨゼフ、核兵器の唯一の被爆国である日本が想像を絶する体験を忘れず、戦争を肯定することなく、平和への使命を果たすことが出来るよう、お導き下さい。(70代男性)
☆ある日、突然…あたりまえの日常が、かけがえのない命が、大切な愛おしい家族が目の前で奪われていく…ただ、ただ悲しくなりました。2019年教皇フランシスコが広島で残されたメッセージ「いのちの神が、わたしたちの心を平和と和解と兄弟愛へと変えて下さるよう祈ります」を今また噛み締めながら平和への祈りを新たにしています(70代女性)

映画会の様子



手書きのポスター



◇神戸地区 西ブロック 垂水教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) 垂水教会 信徒会館 約30人

2. 企画の具体的な内容

映画『ワタシたちハニンゲンド!』を通して、日本人の差別意識の現実を学ぶ。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

知っているようで知らなかった、「日本人が外国人を受け入れない」という歴史を、映画によって学び、知り、「一人一人ができることで社会に働きかけ、小さなムーブメントがあちこちにできてほしい」との思いで企画しました。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

感想を通して、たくさんの方の胸に強く響いたと感じました。入管法が改悪された今、政府は世論の様子を伺っていて、今がとても大切な時期だと監督はお話されました。私たち自身の態度が試されていることを共通確認できたように思います。

5. 参加者の思いや感想

- ・知らない事が分かり、良かった。
- ・何か行動したい。
- ・子どもに「親切に、優しく」と教えているのに、国や権力の判断が正しくなければ、発展は無いと感じた。
- ・多くの方が現状を知り、問題意識を持つことから始めるしかない。
- ・小さなことからでも、大きな力に変わるまでやり続けることが必要。
- ・国を左右する選挙の大切さを痛感する。
- ・今 力を合わせて行動を起こす時。
- ・大人たちは反省の心で、子ども達には、差別、偏見のない生き方を学んでほしい。
- ・「この人にも親がいる」という感覚は大切だと思った。



◆神戸地区 西ブロック 洲本教会

1. 日時/場所/参加人数
8月4日(日) 洲本教会聖堂 40名
2. 企画の具体的な内容
 - ① 平和祈願ミサ
ミサの中で、当日までに準備してきた平和の祈りを平和の鳩に記し、ミサ中に捧げる。
後日、一つにまとめて掲示する。平和の祈りをいくつか選んで、共同祈願として朗読する。
 - ② 子どもたちによる絵本の朗読と平和に関するプレゼンテーション
・ウクライナの現状 ・ガザ地区の現状 ・広島への修学旅行で学んだこと
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
 - ・一人ひとりの思いを大切に、平和の祈りをそれぞれの言語で平和のハトに書く
 - ・全員の平和のハトを一つにまとめ、お互いにシェアする
 - ・子どもたちが考える平和を大人も共有する
4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと
 - ・平和のハトを作成するにあたり、多言語で書けたことが、より皆の思いを表していて良かった
 - ・平和のハトをまとめたことで、平和への思いがより強く一つにまとまったような気がする。
 - ・子どもたちが、きちんと事前に準備をして発表できたことで、一人ひとりがしっかり平和について考えられたことと、達成感を得られたことは良かった。
5. 参加者の思いや感想
 - ・平和のハトに書かれた祈りを読むと、平和って戦争をしないということだけではなく、日々の生活の中で誰もが安心して生活できるということをいうのだなと改めて感じた。
 - ・平和のハトが「Shalom、平和、peace」と書かれた文字に向かって飛んでいくようにまとめられたものを見ると、みんなの平和への思いが良く伝わってきて、このように世界中の人々の思いが一つになれば、その祈りはきっと神様に届くだろうと思った。
 - ・子どもたちがよくがんばっていた。平和について、子どもたちに負けないように、大人もしっかりとお祈りしたいと思った。
 - ・「平和への思いを受け継いでいきたい」という子どもの願いに共感した。
過去の戦争を忘れることなく、平和への道を探っていきたいと思う。
 - ・とても平和的で、ほのぼのしていて良かった。
 - ・小さい子どもでも、戦争に興味を持って考えていることに感動した。



平和のハトをカゴに
入れる信徒の皆さん



平和のハト



絵本の朗読

◇神戸地区 中ブロック たかとり教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月11日(日) たかとり教会 食堂 9名
2. 企画の具体的な内容
講演者(奈良雅美さん、鋤柄利佳さん)が所属する「アジア女性自立プロジェクト」が取り組む『顔の見える』フェアトレード』について経緯や現状を学び、日本と異なる文化、社会を理解することが平和(交わり)の第一歩であることを、講演とワークショップ(ネパールの糸でコースター作り)を通じて実感する。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
 - ・これまでも教会が大切にしてきた「交わり」を外さないこと
 - ・講演を聞くだけでなく、何らかの体験を伴う企画とすること
 - ・たかとり教会に併設する「たかとりコミュニティセンター」に所属する団体(弱い立場に置かれている人々を支援する団体)とコラボした企画とすること
4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
 - ・平和旬間行事が小教区の行事としては定着していないように感じた。
特に大多数を占めるベトナム系信徒(定住者、寄留者とも)には、言語の問題もあるが「平和旬間」そのものの意義が十分理解されていないのではないかと感じた。
5. 参加者の思いや感想
 - ・とてもいいお話だったのに、参加者がとても少なく残念だった。
 - ・(ワークショップでは)講演で紹介されたネパールの女性たちのことを思い起こしながら、コースターを織っていきました。



◇神戸地区 神戸中ブロック 兵庫教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月4日(日) 10時~12時 兵庫教会(9時ミサ後) 10名

2. 企画の具体的な内容

長崎で活動されている古巣神父様の忘れ難い60代の「ミネヤン」という男性との出会いの感動実話をプリントし、皆で読み、分かち合いを行う。その後、ロザリオの祈りを一環唱えました。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

「平和のために働く人は幸い」聖書に書かれていることを、病院のベッドの上で、見事に完成されたミネヤン。つつましく生きた姿は、戦争とは無関係の世界でも行うことができる平和をもたらす知恵。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

8月4日の自分の教会の平和旬間行事だけでなく、他の教会の平和旬間行事に行きたかったけれど、8月11日(日)のミサ後に各教会の行事が集中しているため、時間的に無理が多かった。しかし、幸いなことに六甲教会の行事が8月11日(日)の14時からだったので、教会の人・数人で出席し、「ルワンダ」の話を聴くことができて良かった。

来年は何とか他教会にも参加できるよう、時間的に工夫があれば良いなと思いました。



◇神戸地区 中ブロック 鈴蘭台教会

1. 開催日/場所/参加人数 8月11日(日)/ カトリック鈴蘭台教会聖堂/ 21名
2. 企画の具体的な内容
映画上映と分かち合い
2021年8月13日NHK終戦ドラマとして放映された「しかたなかったと言うてはいかんです」(妻夫木聡・蒼井優主演、九州大学生体解剖事件を題材とした映画)を視聴し、戦争下でゆがめられた人間性とそのことを引き起こす戦争の悲惨さについて考え分かち合う。
ただ、映画が90分と長いため、当日は映画鑑賞のみで、分かち合いは、感想文を提出していただき、それをまとめたものを参加者以外にも配布して読んでいただき、分かち合う形式とした。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
映画への理解を深めるため、事前に九州大学生体解剖事件について口頭で説明し、当日も、平和旬間の意義、九州大学生体解剖事件についての解説をプリントし配布した。
4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
90分の映画であったが、皆さん真剣に鑑賞されていた。また、感想文の内容などから、皆さんの平和への意識の高さが良く分かった。
5. 参加者の思いや感想
 - ・いかなる規模の戦争であっても、誰でも被害者に、そして加害者にもなりうることを決して忘れずに、「戦争と平和」に敏感であり続けなければならないのでしょうか。
 - ・主人公の医師は特に信仰を持っていないようでしたが、あんなにまで自分の心と向き合い苦悩する姿を見て、信仰を持つ私たちがあの状況の中にあつたら何ができるだろうかを考えさせられました。
 - ・人間は、すぐに言い訳をします、戦争だから、命令だから逆らえなかった、といいます。私もそう思うと思います。が、「何もしなかった罪」という言葉、本当にそうなのだと感じました。今後、神を信じるものとしてできることをしていきたいと思いました。



◇神戸地区 中ブロック 三田教会

1 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) / 三田教会聖堂 / 31名

2 企画の具体的な内容

所属信徒から幼いころの戦争体験を語っていただくお話し会。

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

戦後80年を前に戦争体験を語れる信徒が少なくなる中、身近な信徒から戦争の悲惨さを話していただくことにより、戦争を知らない世代に平和の尊さを考えてもらう機会として行った。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ・ コロナの行動制限が緩和された現在、久しぶりに小教区平和旬間行事が実施することが出来て良かった。
- ・ 戦争があった頃の日常生活や学校生活の実情を知ること、日常の平和の大切さを改めて考える場となった
- ・ 戦争の記憶がある信徒が減っていく今日、次の世代に戦争の悲惨さをどう伝えていくかが課題と感じた。

5 参加者の思いや感想

- ・ 戦争体験の貴重な話を生の声で聞いたのは大変良かった。
- ・ 話を聞くことによって、改めて昔のことを懐かしく思い出したと言う方もおられた。
- ・ 戦争は悲惨であるので二度と起こらないことを願う。



1. 開催日/場所/参加人数
8月11日(日)/ 平和祈願ミサ 約100名
「フィリピンスタディーツアーの体験をとおして平和を考える」約27名
8月18日(日) 「みんな地球人」 約33名
- 2... 企画の具体的な内容
平和祈願ミサ 平和の祈りの折り鶴を奉納、共同祈願(こども1名、その他)
聖歌「キリストの平和」
「フィリピンスタディーツアーの体験をとおして平和を考える」
ミサ後、集会室でお話と写真の展示 お話、河村弥生さん(当教会信徒)
外国にルーツのある人、青年、子どもプログラム「みんな地球人」 動画上映
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
 - ・平和祈願ミサをとおして、一人でも多くの信徒が平和の祈りに参加できるようにする。
 - ・ミサ後のお話で、過去の太平洋戦争(フィリピンでの加害の歴史)を振り返ることを通して、平和の大切さを考える。
 - ・青年や子どもたちにまた、大人の方たちに動画上映を通して、身近にある「差別」や身近なところから、平和について考えるきっかけとする。
4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
 - ・平和祈願ミサで、ミサに与った信徒みんなが平和のために祈ることができたことは良かったと思う。
ミサ後のフィリピンスタディーツアーの体験のお話は、写真展示を、当日参加できなかった方にも見ていただきながら話げできた。
 - ・「みんな地球人」の動画は大人や高学年以上の子どもたちには良かったが、低学年以下の子どもたちは、後半お話を聞く集中力が続かなかったところがあり、次回は子どもの年齢によって内容を考えた方がよいと思った。日本語ミサの信徒だけで考えて、英語ミサの信徒と相談することをしていなかったため、今後、検討したい。
5. 参加者の思いや感想
 - ・「フィリピンスタディーツアーの体験をとおして平和を考える」は英語ミサにはフィリピンの信徒が多いが、過去の太平洋戦争での(日本の加害の)歴史について知らなかったことを、知ることができよかった。有意義な話だった等、聞かれた。
「みんな地球人」感想を聞いた中学生や大人の参加者からは良かったという声が聞かれた。



フィリピンスタディーツアーの体験を通して平和を考える。

◇神戸地区

東ブロック

住吉教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月6日(火)/住吉教会聖堂/50名

8月11日(日)/住吉教会聖堂/100名

8月15日(木)/住吉教会聖堂/90名

2. 企画の具体的な内容

8月6日(火)18時～ 平和旬間開幕ミサと聖体顕示

8月11日(日)10:30～ 講演会 テーマ「女性の視点で災害をとらえる」

正井禮子氏 (NPO 法人「女性と子供支援センターウィメンズネット・こうべ」代表理事)

8月15日(木)18:30 ロザリオの祈り 19:00 聖母の被昇天ミサ

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

住吉教会として、従来は内部だけで平和旬間の行事を行い、それだけであった。

教区の広報を通じての外部発信もなかった。

今年はこの点を見直し、評議会で時間をかけて検討し、要望のあった講演会も企画し実施、住吉教会独自の取り組みをつくるように心がけた。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

パトロ金神父様の発案による“目に見える形で平和旬間を考える”取り組み

- ① 十字架の布の装飾
- ② 被昇天ごミサの前のロザリオの祈り
- ③ 各家庭から持ち寄ったマリア像の祝福
- ④ オーガンディ生地を用いたマリア様の装飾
- ⑤ 女性の視点で災害を取らえる正井禮子さまによる講演会

が好評であった。住吉小教区として独自の系統だった行事が企画されて大変良かった。

5 参加者の思いや感想

女性支援活動の先駆けとして長年活躍された正井さんは、カトリックとはあまりご縁のない方ですが、友人から聞かれた「たとえ死の陰の谷を行くときにも 私は災いを恐れない。

あなたが共にいてくださる」(詩編23)を挙げられ、「支援というのは、寄り添うこと。一人にしないこと孤立させないことだと思ってやってきました。」と話されたのが心に残りました。

外部からも、この講演を聞きに来られた方もおられ、熱心に聞いておられました。

高齢や家庭の事情で夜は出にくい方もおられるので、被昇天のミサを09:30か10:00での実施を検討してほしい。一連の取り組みが評議会で十分に検討されたことなのか、少しひっかかりました。



◇神戸地区

東ブロック

六甲教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) / 六甲教会聖堂 / 51名

2. 企画の具体的な内容

アフリカのルワンダで義肢製作所を開き、無償で8,000人以上の障害者に義足や装具・杖などを提供してこられた、ルダシングワ真美さんと、パートナーのガテラさんをお招きし、ルワンダでの活動や、ルワンダの内戦と現在についてのお話しをうかがいました。

3. 計画するにあたって大切にたこと(ねらいや目的)

普段あまり触れることのない、ルワンダという国でのことなので、一人でも多くの方が参加していただけるよう、ポスターを工夫して作成してもらった。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

当初はお二人の活動についてのお話を中心と理解していたが、もっと大きなテーマとして、西洋の統治下における不合理な民族分けに端を発した内戦から、どのようにルワンダが立ち直ってきたか、特に殺し合った民族同士が許しあい、手を取りあって国を発展させている、許すことの大切さを考えさせる集会となった。

5. 参加者の思いや感想

参加者からも「許す」ということがテーマでしたね、という言葉が聞かれた。



◇阪神地区 夙川ブロック 芦屋教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月4日(日) 芦屋教会信徒館ホール 42名

2. 企画の具体的な内容

映画上映会の開催 「愛の鉄道」

映画会とは別に、子ども会の集まりで、絵本の朗読をしました。

「平和ってすてきだね」・・・6歳の子どもが作った詩であることを話して、読んでいただきました。

与那国島のステキな平和を守りたいという思いで選びました。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

今も世界の各地で起こっている争いについて考える機会になることを期待しました。

ミサの時間の関係で、昼食をとる時間がなく、食事をしながらの上映にしました。

画面に向かって座り、横のテーブルにサンドイッチと飲み物を置いての視聴は、参加者にとって重い内容のドキュメンタリーにもかかわらず、良い設定になりました。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

日頃ホールでお茶や食事をしておられる方以外の方も、教会外の方もたくさん来ていただきました。

発信すれば、興味のある方に伝えることができることに気づきました。

5. 参加者の思いや感想

とても良い映画で感動しました。争いの連鎖を止めるため、子どもたちには「憎むのではなく、手をつなぐことの大切さ」を伝えていけたら…と思いました。

サンドイッチやおにぎりを食べながらの設定は良かったと思います。

ふだんあまりミサでお見掛けしない方も来られていて、「良かったです！」と言っただけで、嬉しかったです。



◇ 阪神地区 夙川ブロック 甲子園教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月11日(日) 甲子園教会 23名
2. 企画の具体的な内容
ガラシア病院で働いておられるシスターの仕事(役割)を知ろう。
大阪聖ヨゼフ宣教修道女会 箕面修道院のシスター石川をお招きする。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)。
甲子園教会が、ガラシア病院におむつ用の古布を届ける活動を行っている中で、ガラシア病院で奉仕・従事されているシスターはどのようなことをされているのかを改めて知っていただきたいと思い、企画しました。
4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと。
シスターの仕事だけではなく、そこからの祈り、布教、感謝が大事であり、ホスピスなどで働かれているシスターを含む病院関係の方の日々の奉仕に改めて敬意を表すると共に、知らなかった事を知ることができて良かった。
5. 参加者の思いや感想
 - ・ガラシア病院での活動について初めて知りました。
 - ・パワーポイントで写真を用いてお話くださったので、とても良く分かりました。
 - ・たくさんのボランティアの方がいらっしゃることを知りました。
私も退職後はボランティアや、自分のできることでお役に立てると良いなと感じました。
 - ・お忙しい中、また猛暑の中、甲子園教会にお越しくださり本当にありがとうございました。ガラシア病院のホスピスの概要を知ることができたことが良かったです。でも、一番印象に残っているのは、シスターの好きな聖句です。
生まれるのにも、死ぬのにも、すべてにおいて神さまの定めた時があるのですね。

《注：編集》

ガラシア病院は1953(昭和28)年11月、カトリック大阪大司教区および大阪聖ヨゼフ宣教修道所会を設立母体として、キリストの愛に基づいた医療奉仕を目的に大阪市西区に設立されました。1969(昭和44)年4月に箕面市に移転し、現在は9の診療科を持って診療を行っています。

- ガラシア病院の基本方針
- 患者中心、慈しみの心
 - 医療連携、地域医療
 - 終末期医療、パストラルケア

◇阪神地区 夙川ブロック 夙川教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月11日(日)/夙川教会 信徒会館/ 約40名

8月6日から8月末まで、ピースツリーを正門横のモミの木に展示

2. 企画の具体的な内容

8月11日(日) 10時～ 平和祈願ミサ

11時30分～13時 講演会「パレスチナ」

講師：水口 隆司氏(キリスト教講座講師)

紀元前から今日に至るまでの歴史・紛争と問題点

ピースツリー：あらかじめ信徒に書いていただいた平和祈願のメッセージカードを正門横のモミの木に展示。146枚集まった。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

講演会「パレスチナ」：終わりの見えないこの紛争を、より正しく理解し、私たちにできることは何かを考えられるようになること。

ピースツリー：野外に展示することによって、信徒にも、とりわけ外を歩く人にも、明るいところで、いつでも見ることができ、平和について考える機会になることを願った。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ・講演会は、参加者全員が一生懸命 聴いてくださり、ピースツリーは信徒の方が平和を思う気持ち、願いを丁寧に工夫して書いてくださった。
- ・他教会にも行きたい行事がいくつかあったが、今年は平和旬間中に日曜日が1回しかなかったため、重なってしまい、参加できなかったのが残念だった。

5. 参加者の思いや感想…4に記入

講演会「パレスチナ」



平和祈願のメッセージカードをピースツリーとして、正門横のモミの木に展示



◇宝塚教会 阪神仁川ブロック 宝塚教会

1. 開催日/場所/参加人数：
8月11日(日) 宝塚教会 約60名
2. 企画の具体的な内容：
長崎での被爆経験を持つシスター（シヨファイユの幼きイエズス修道会所属）を迎えて、当時の体験を語っていただく。
3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）：
被爆体験をされた方ご本人から直接話を伺える機会が年々減ってゆく中で、戦争による多くの問題をあらためて心に留め、さらに次の世代へと繋げてゆくための機会としたかった。
4. 平和旬間を終えて全体を通して気づいたこと、良かったこと：
社会活動委員会主催ながら、主任司祭をはじめ委員会の枠を越えて多くの信徒の方々の協力を得られたことに大きな感謝と喜びを感じた。
5. 参加者の思いや感想：
原爆投下から79年の月日が経ちました。79年前のその日も、いつもと同じ朝がきて、そしていつもと同じ夜を迎え、眠りにつくはずだった多くの人々が、原爆によって、未来の希望や、美しい過去も残酷に奪われたことは、想像するだけでも背筋が凍るようです。また、心身の後遺症に生涯苦しまれたことにも、深い悲しみを覚えました。そして、そのような辛い体験を、まわりの人たちのために役立てようとする生き方に感銘を受けました。
お話の中の、「平和とは空気や水みたいに黙っていてもただで手に入るものではなく、常に互いに愛し合い、分かり合う努力をし、赦し合うことでしかやっこない」という言葉が印象に残りました。私たちひとりひとりの、日常のごくささいな出来事も、平和な世界を作る、はじまりの一步だと思つと、ひとつひとつの出来事が意味のある大切なことに思えます。
そして、私たちの心が自由であれば、本来予想され、限界づけられた結果を大きく超え、愛に満ちた豊かな人生を送られるという言葉に希望を感じました。
終戦記念日を迎えるにあたり、次の世代に平和な世界を引き継いでいくために、何ができるのかを考える機会となりました。ご準備いただきました全ての方々に感謝いたします。



◇阪神地区 仁川ブロック 仁川教会

1. 開催日/場所/参加人数

- ① 原爆忌（8月6日、9日）の原爆投下時刻に教会の鐘を1分間鳴らし、その後聖堂では被災者の鎮魂と世界平和のために「平和を求める祈り」を捧げた。（各10名）
- ② 平和祈願ミサ（8月11日）110名
ミサ後「霊における対話」（仁川教会バージョン）64名

2. 企画の具体的な内容

8月11日（日）9時からの平和祈願ミサ

1部：ウクライナ、ガザの実態映像をパワーポイントで写し、解説を視聴（15分間）。

2部：国際平和祈願ミサ（共同祈願は日本語、ベトナム語、英語で行った。）
聖歌は、日本語の典礼聖歌とベトナムの青年たちによるベトナム語の聖歌。

3部：「霊における対話」（仁川バージョン） テーマ：真の平和をめざして（参加者64名）

3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

スローガン：「戦争がもたらす悲劇を知り、真の平和を願う日」を共に！

- *「無関心は罪」、「無関心はいのちを奪う」というメッセージと共に、一般のニュースでは報道されない映像と解説で、戦争の悲惨さ、残酷さを身近に感じていただく。
- *ベトナムの青年たちと同じ共同体として、平和への思いを分かち合う。
- *ともに歩む教会として、自分の心に問いかけ、他者の考えにも思いを寄せる目的。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- *「霊における対話」（1グループ4～5名）で、初めてお話しする方とも平和への思いを分かち合えて、「共同体の平和構築」への良い機会となった。
- *ウクライナやガザの悲惨な映像と解説により、ニュースでは知らされていないことを知っていただき、戦争の残酷さを深く印象付けた。

5. 参加者の思いや感想

- *ニュースでは知らされないこともあると知り、真実を知ることの大切さを知った。
- *戦争の残酷さを知るために、戦争体験者の話を聞きたい。
- *平和を築くには、「良い政治」が必要。そのためには「良い政治家」を選ぶことが大切。政治に無関心ではいけない。
- *初めてのことでためらいがあったが、初めてお話しする方とも交流でき、平和を願う気持ちを共有できた。

ウクライナ、ガザの状況を
パワーポイントで。
戦争の悲惨さを共有。



3か国語での共同祈願



「霊における対話」風景
4～5名のグループに分かれて



◇阪神地区 仁川ブロック 伊丹教会

1 開催日/場所/参加人数

2024年8月11日(日) / 伊丹教会 聖堂 / 約50名

2 企画の具体的な内容

NPO法人「パレスチナ子供のキャンペーン」会員：嶋田 かおり氏（玉造教会信徒）を講師にお迎えし、平和旬間講演会「平和への願い・ガザとイスラエル」を開催。

冒頭で、世界で起こっている紛争の犠牲者に対して、参加者全員で黙祷を捧げたのち、NPO法人の簡単な紹介（*1）に続き、ガザとイスラエルの現状について、資料とビデオ映像を交えて講演いただいた。講演の終わりに「平和を求める祈り」を全員で唱えた。

3 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

現在進行中で、カトリック教徒にとって関わりの深い地域での戦禍についての現状、事実を認識し、我々が祈ること以外にできることを考える。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

我々に何ができるかは答えのない問いではあるが、祈るだけでは何も変わらないことは事実。我々がこの戦禍について対話して認識を深め行動していくことが大事であると改めて気付かされた。講演会ではガザ地区の住民構成や生活の状況も伺うことができ、より理解を深めることができた。

5 参加者の思いや感想

（講演会後のアンケートから抜粋）

- ・これからは「遠い国の争い」とだけではなく関心を持ち続けたい。
- ・沈黙せず声を上げて対話していくことが大事であると思った。
- ・憤りや怒りを語るだけでは復讐の連鎖が続くだけであり、そうならないようにしているとの言葉に感動した。
- ・平和を求め、将来に対する責任を担うためには、過去を振り返り、無関心ではなく色々な手段で知ること、学ぶことが大切。



◇阪神地区 尼崎ブロック 園田教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月4日(日)ミサ後 園田教会 1階ホール 約40名

2. 企画の具体的な内容

「紙芝居文化の会」の方をお招きして、紙芝居をしていただいた。平和に関する題材が2話、それ以外が5話で、合計7話。そのうち1話は、原作者がベトナム人なので、2か国語で行った。

読み手は紙芝居文化の会の方、ベトナム人シスター、信徒3名。日曜学校の子どもたち、そして主任司祭の山口神父さま。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

平和旬間行事は、どちらかというと大人向けが多いが、今回は子ども達にも平和の大切さを考えてもらいたいので、紙芝居にした。紙芝居を通して子どもから大人まで、皆で同じ時間を過ごすことが平和なことであり、その間を共に味わう。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

大人も子どもも一緒に平和の大切さを実感できた。来年も、大人も子どもも参加できるような平和旬間行事にしたいと思った。

5. 参加者の思いや感想

4に同じです。



◇阪神地区 尼崎ブロック 尼崎教会

1 開催日/場所/参加人数 8月11日(日) / 尼崎教会聖堂 / 約80名

2 企画の具体的な内容

ミサ前に平和に関する祈りとロザリオ一連

個人的に作成をお願いした共同祈願 プラス4つ

子どもたちが作成した花束を奉納

ミサの最後に子どもたちによる二部合唱

この日の聖歌はほとんど平和に関する歌を選曲

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

一人ひとりが平和を意識する。皆で平和を願う。

その平和は「キリストが中心」でなければならないことを意識する。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

平和は皆が願うもの。大勢で心を合わせて祈ることのパワーを感じた。

5 参加者の思いや感想 /

① 「大きな声で歌えてよかったです。これからも平和について考えたらいいと思います」久継美奏ちゃん

② 「平和ミサで、みんなであらためてイエス様のことを考えられたし、みんなで一生懸命歌を歌えて、ミサの時に平和ってこういうことだなんて思えました。

今平和がない世界の子どもたちにも、神様が守ってくれるようにと祈りました」

向井美結ちゃん



◇北摂地区 西ブロック 池田教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月4日(日) 聖堂・信徒会館 講演:42名 分かち合い:32名
(準備した資料 60 枚はすべて配布された)

2. 企画の具体的な内容

- ① イスラエル・パレスチナ・ガザ・ハマスについて、歴史と現状について、西口信幸さん(夙川教会信徒)に、ビデオ等を入れた講演をしていただき、その後 分かち合う。
- ② 平和旬間期間中のミサの共同祈願で、平和を願う。
- ③ 平和旬間中の21:00に、それぞれの家庭・場所で平和の祈り、主の祈り、アベマリアの祈り、栄唱を各自唱える。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

平和のことを考えて祈りをする。いろいろな人と、平和への思いを分かち合う場にする。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ① テーマを決める際に、評議会を巻き込み、幅広い意見を聴くことができて良かった。
- ② 行事・当日だけでなく、毎日のミサの共同祈願や毎晩の祈りを提案したことにより、多くの祈りができたこと。共に祈ることが温かいと感じて、嬉しく思った。
毎日の祈りは続けていきたい。

5. 参加者の思いや感想

- ・ガザの子ども達の窮状に心が痛んだ。
- ・今まで知らなさ過ぎた。
- ・知ろうとしていなかった自分に気づき、恥ずかしくなった。
- ・与えられる情報だけを鵜呑みにしてはならないとつくづく思った。



◇北摂地区 西ブロック 日生中央教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) 日生中央教会 47名

2. 企画の舞台的な内容

8月1日～25日 各家庭またはグループで、あらゆる場所で平和のために祈る。
その祈りを花として、花束を作成。25日、ミサの中で奉納。

8月11日(日) 平和祈願ミサ

ミサ後、①「キリストの平和」を手話で合唱

②「戦争語彙集」より朗読

③絵本「わたしの『やめて』」をスライド上映にて朗読

④平和祈願メッセージを葉に記載し、18日に奉納、展示。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

*「戦争語彙集」・今苦しんでいる人の語彙の力が心に沁みました。

*発信し続けたら枝葉が茂って来るのを期待して、祈り続けたいといけな。

*いのりということをおぼれないということをお大切にしました。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

*・時間をかけて準備を丁寧におこなったこと。皆で取り決めたこと。

*それぞれの方の奉仕でおこなったこと。 *新しい視点で考えることができました。

*祈りの花束もあり、行事に参加できなかった人も、ともに祈ることで一つになれたところが良かった。

5. 参加者の思いや感想

*平和旬間に置いて、皆で平和のことを考え、行動に移せたことが良かった。

*「戦争語彙集」の発表については、現実の話であり、社会活動委員会のメンバーひとりひとりによる朗読で、とても心に響きました。

*苦しみの中におられる人々の心に寄り添い、お互いに思いやる気持ちを忘れずに、平和への願いを続けていきたい。



◇北摂地区 西ブロック 箕面教会

1. 開催日／場所／参加人数

8月4日（日）／カトリック箕面教会／約40名

2. 企画の具体的な内容

「相手の立場や状況の理解について気づく」という目的で、同教会信徒の深尾泰さんに講師をお願いし、日々親しんでいる典礼聖歌を取り上げ、典礼聖歌 409、400 およびカトリック典礼聖歌集（一般用）「ああ指なき合掌」を聞きながら歌詞を追いました。そして、やむを得ない理由で生活困窮されている方々、病気で苦しみ希望が持てない方々、何らかの理由で保護者に養護されず、養親、里親、養護施設の保護を受けている、あるいはそのような経験があった方々が、どのように感じておられるかを、実際に当事者の声（過去のカトリック時報に掲載された記事等）を紹介しながら、参加者で考えてみました。

3. 計画するにあって大切にしたこと

平和旬間の趣旨文は大切にしつつも、私たちの身近なところから戦争が起こる原因を考え、その一つとして、国や民族の自己中心的な考えや行動があるのではないかと思ひ至りました。また、例として典礼聖歌を取り上げましたが、参加者の皆様には、今回の行事は決して典礼聖歌を批判するものではなく、考えることが大切であることも合わせて強調いたしました。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

何名かの方に、行事前から興味があるということをお伝えいただきました。日々の慣れ親しんでいる典礼聖歌の歌詞、あるいは聖書の表現に良い悪いは別として、当事者の視点で見直すきっかけをご提供できたかもしれないと思っております。

5. 参加者の想いや感想

時間の関係上、十分な分かち合いの時間を取ることはできませんでした。分かち合いの内容には守秘義務がありますが、その中でも実体験として、当初カトリックに好意的だった知人が、同様に典礼聖歌の歌詞にがっかりして教会を去っていた例をご紹介いただきました。主任司祭・矢野神父様にも神学生時代の経験を分かち合ってくださいました。周りが理屈を並べても、当事者の視点がいかに大切かということをお学ばせていただきました。



◇北摂地区 東ブロック 高槻教会

- 1 開催日/場所/参加人数
7/19～8/4 短冊募集 ・8/4 カフェ
・高槻教会内カフェ参加 12名 ・祈りの短冊 23名
- 2 企画の具体的な内容
教皇ヨハネパウロ二世のヒロシマ平和アピールをベースにして
 - ① 信徒全員に呼びかけて祈りの短冊を投書していただく
掲示板に貼り出し、全祈りを一枚にまとめてミサで参列者全員に配り、いくつかを共同祈願で読む
 - ② カフェを開催し分かち合う
- 3 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）
平和旬間を自分事として考える期間にする
 - ・なるべくたくさんの方が参加できるようにする
 - ・一方的でなく、『平和アピール』に沿った個々の思いを共有できる場所作りをする
- 4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
 - ・多くの信徒にとって「平和旬間」が形だけになっている感じがした（「社活のイベント」に収まってしまっているのではないか）
 - ・カフェを開催したことで、普段交流のない信徒の思いを共有でき、知らないことを知る機会になったことは良かった
- 5 参加者の思いや感想
 - ・参加の人数は多くなかったけれども、参加者皆がそれぞれ思うところをしっかりと分かち合うことができ、平和を身近な問題として深く考えることができてよかった。
 - ・司会の穏やかな進行で、集まり、個々の自由な発言の場に身を置いて今在る平和を実感することができた。
 - ・教皇さまの言葉の重大さにあらためて気付くことができた。対面して話し合うことの大切さも味わうことができた。このような機会を増やしていけたらと思う。
 - ・「広島に原爆が落ちたのは何か意味があったのだ」と言われてきたが、教皇さまのメッセージで「戦争は人間のしわざ」だとはっきり言ってもらえたことが嬉しかったとの発言が忘れられない。神さまは戒めのために人間の命を蔑ろになど決してなさらない。人はどうすれば回心できるのか、考えさせられた。
 - ・今、平和のために私たちができること…は、まず自分の身の回りから政治（社会）に関心をもち、国で働く人の資質を見極め、リーダーを選んでいくことではないか。



◇北摂地区 東ブロック 茨木教会

- 1 開催日/場所/参加人数 8月 11日(日) / 茨木教会 聖堂 / DVD上映 23~34名
- 2 企画の具体的な内容
 - ・ミサ前にDVD「カリタスジャパンと私たち(活動紹介編)」(約15分)の上映
 - ・平和祈願ミサ(聖書の典礼の共同祈願等)
- 3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
DVDの内容・長さ・著作権、ミサとの関係(上映がミサに悪影響を及ぼさないことなど)、コロナでしばらくしていなかった活動の再開等。
- 4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
 - ・今回の平和旬間行事に先立って久しぶりに対面の委員会を開催できたこと。
 - ・DVDは、全体的に宣伝的というよりも報告的であり、カリタスジャパンが国際カリタスと連携して、堅固な信仰を土台とした地道な良い活動を実施されているように感じられ、良かったこと。
 - ・DVDは、信徒にとって入りやすいテーマだったと思われたこと。
 - ・著作権の問題もクリアでき、背丈に合った活動ができたのではと思えたこと。
 - ・DVD上映に先立ちDVDが2011年制作と古かったことにより予めカリタスジャパンから依頼されていた現在との相違点や補足説明した上で上映できたこと。
 - ・当日、早く準備ができたので予定していなかった開発援助編の上映もできたこと。
- 5 参加者の思いや感想
 - ・よく活動を理解できた。協力していかなければと思いました。
 - ・カリタスジャパンについて何も知らなかったが今回のDVDを見て良く分かり勉強になった。
 - ・カリタスジャパンの活動が良く分かって良かった。
 - ・カリタスジャパンが、国際カリタスと連携した組織である事がよく理解出来た。
今後、我が国では、難民移民への支援が、益々重要になっていく。
カリタスと社会福音化推進委員会の関係を深化してゆく必要があると感じた。
 - ・カリタスの活動が世界的でもっと献金したいと思った。
 - ・大船渡へ行った。カリタスが活動をしていた。頑張るって欲しい。
 - ・貧しい国の人々の教育とか自立を支援する活動が大事だと思いました。
 - ・全体的に宣伝的ではないかと思ったが、見てみると意外と報告的なのが良かった。
 - ・思ったより司教・司祭が活動に関与しているという印象を持った。
 - ・堅固な信仰を土台とした地道な良い活動を実施されているように感じられた。



◇北摂地区 東ブロック 千里 NT 教会

1. 開催日/場所/参加人数

①7月14日(日) ②8月4日(日) ③8月11日(日) ④7月7日～8月11日
50名

2. 企画の具体的な内容

- ①② ミサ後、動画～We are The World～
- ③平和祈願ミサ ミサ後、～こころを平和にする童謡を合唱～
♪手のひらを太陽に ♪夕焼け小焼け ♪故郷
- ④平和に関する絵本や書籍の紹介、地域の平和

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

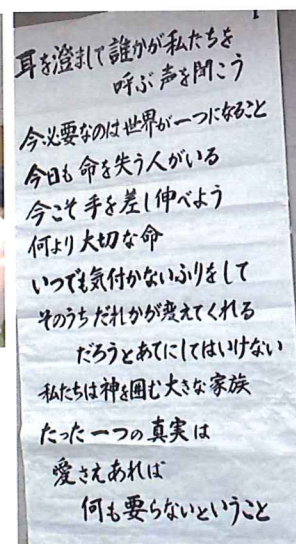
平和の大切さを改めて学び、こどもから大人まで理解できるように…という所を意識して取り組みました。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ①絵本は、子どもから大人までたくさんの人に読んでいただくことができ、良かった。
- ②歌も、皆がよく知っている歌で良かった。

5. 参加者の思いや感想

動画も、観たことのない方が多かったので、たくさんの方に観ていただき、平和について考える機会となったことが良かった。



◇北摂地区

東ブロック

吹田教会

1. 開催日／場所／参加人数
8月11日（日）／ 吹田教会聖堂 / 約40名
2. 企画の具体的な内容
ロザリオの祈りや「平和を願う祈り」に役立つ画像や写真をスライドショーで見ながら、心を合わせて祈る企画
3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）
現在の戦争、過去の戦争の問題だけでなく、家庭や環境一人ひとりが平和への願いを意識して祈るように企画しました。
4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
多くの方に参加していただき、神様に感謝です。
みんなでロザリオを祈る機会を増やし、喜びや感謝を共有できるようにしていきたいと思います。
5. 参加者の思いや感想
普段一緒に祈ることが少ない人たちとも、聖堂で平和への願いを込めたロザリオの祈りができたことが嬉しかったです。平和は一人ひとりが相手を思いやる心が大切だと感じました。



◇大阪北地区 梅田ブロック 関目教会

1 開催日/場所/参加人数

8月4日(日): 60名 11日(日): 60名 15日(木): 50名

2 企画の具体的な内容

☆ 平和祈願ロザリオの祈り(8月4日、15日のミサ前)

☆ 能登震災地に行かれたシスター大橋のお話を聞く(8月11日 主日のミサ中)

☆ 苦しむ人びとの声に耳を傾け応えていこう(霊的花束)

苦しむ人びとの声に耳を傾ける(8/4)→祈る自分にできること(8/11)

⇒15日の被昇天のミサで奉納(ミサ後小さな聖母行列、ルルドの聖母前で鐘(*)に

あわせてお告げの祈りを唱える) ((*)「平和の鐘」の参加も兼ねて)

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

テーマに基づき、できるだけ多くの方々に関わっていただき、参加していただくこと。
祈りを忘れないこと。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

分かち合いまでではできないにしても、多くの人びとに参加していただき、テーマについて考えていただく機会となったと思います。

実際に現地に行かれたシスター大橋のお話しを聞くことはマスメディアを通して聴くこととは異なり能登の現状を伺うことで少しでも心を寄せることができたと思います。

5 参加者の思いや感想

寄せ書き、霊的花束形式での行事になれてきていただいた感がうかがえました。



◇大阪北地区 しろきたブロック 大東教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月11日(日曜)/カトリック大東教会 / 26名参加

2. 企画の具体的な内容

ミャンマーから平和を求めて来日、現在仮放免中の難民マウン・ミョウトン・アウンさんご本人から母国やご自身の困難な状況を語っていただき、分かち合いを経て、自分自身の事として考える。その後、決意や思いを「平和を求める祈り」のカードに記す。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ① 平和旬間行事が単なる行事と終わるのではなく、これからも引き続いて“私達が出来る事”を続けて取り組んでいくために、ミャンマーや難民の厳しい現状をまず学んで知ってもらうこと。
- ② ミョウさんとの関わりも4年目を迎え“顔も知らない人”ではなく“顔も知っている私の隣人”として、お互いを身近な存在として平和旬間行事が繋がりがあう場となること。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ① コロナ禍を経て会えない中、細々でも繋がりが途切れなかったミョウさんのお話を直接伺い、ミャンマーやミョウさんの厳しい現実、状況を単なる知識ではなく身近な人の困難として受け止められたこと
- ② 本人も交えて2つのグループで分かち合い、更に深い話を参加者がじっくり伺うことができた。
- ③ ミャンマーに関心を持つ他教会の方が、案内チラシをご覧になり参加され、私達にとってもミョウさんにとっても新しい出会いがあった。

5. 参加者の思いや感想

ようやく直接お話しを伺えてよかった。私達に何が出来るだろう？出来ることから始めます。難民の方が作ったグッズなどあれば買って応援したい。食料支援などから始めます。今後も大東教会に来て欲しい。他の機会にまたお話しを伺いたい。



◇大阪北地区

しろきたブロック

門真教会

1. 開催日／場所／参加人数

8月18日(日) 門真教会 60名

2. 規格の具体的な内容

①平和への国際合同ミサ

- ・平和への祈りの花束をミサ内で奉納
- ・共同祈願は日本語、ベトナム語、タガログ語で行った

②分かち合いのバーベキュー

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

門真教会は日本人、ベトナム人、フィリピン人など国際色豊かな共同体です。

この共同体の一致が身近なところの平和、そして世界の平和につながっていくようにとの願いを込めて今年は国際共同ミサを計画しました。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと。よかったこと。

平和への祈りの花束は、時間に余裕を持って準備できたことは良かったです。

国際合同ミサは準備期間が少なかったため、ベトナムチームとの調整がつかず、ベトナムの方は午後1時からのベトナム語のミサに参加したため、ベトナムの方の参加が少なかったことが残念でした。

5. 参加者の思いや感想

社会活動委員会が平和旬間の準備をしていますが、現在門真教会で社会活動委員会のメンバーがおらず、代理という形で準備してきました。そのような環境でも、他の委員会の方や有志の方の助けをいただきながら平和旬間が無事に終えられたことに感謝します。

来年は今回の反省も踏まえて平和旬間に取り組んでいけたらと思っています。



◇大阪北地区 河北ブロック 香里教会

1. 開催場所/場所/参加人数

8月11日(日) 香里教会聖堂 38名

2. 企画の具体的な内容

「今こそ 日本国憲法に基づいた平和外交を」ということで、平和祈願ミサの後、DVD「してはら」を鑑賞し、分かち合いをする。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

ウクライナやガザで、今もおびただしい数の犠牲者をもたらしている状況で、私たちが平和のためにできることは、日本国憲法に基づいた平和外交なのではないかという思いから、平和憲法制定に尽力したといわれる幣原 喜重郎について知るため。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

映画鑑賞にしたことで、内容がより伝わりやすくなったと思うが、時間的に適当な題材のものを見つけるのが難しい。(良いものでも、長時間かかるものは使えない)
今回は40分のDVDであったので、分かち合いの時間も取れて良かった。

5. 参加者の思いや感想

- ・アメリカに押し付けられた憲法だと思っていたが、幣原喜重郎の考えが反映していたことを始めて知った。
憲法9条を守るために、私たちにできるのは何なのかを考えなければいけない。
- ・今、日本では軍備が必要だという声が高まっているが、外交の力でもっとできることはないのか。
- ・日本では戦争を知らない人がほとんどになってきた中で、誰が伝えるのか、非戦を守るのか。いろいろなことを知って、考えなければいけない。



◇大阪北地区 梅田ブロック 大阪梅田教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月4日(日)と8月11日(日) 平和祈願ミサ 大聖堂
日本語ミサ 7時、11時 130名くらい
英語ミサ 9時、13時 250名くらい
スペイン語ミサ 35名

2 企画の具体的な内容

8月4日と11日(日)/平和祈願ミサ 7時、11時(日本語) 9時、13時(英語)
説教の中に平和についてのメッセージを加えていただき、共同祈願でも平和のための意向を加える。

8月4日 ①日本語ミサの中で平和についての紙芝居『てんぐのけんか』を子どもたちが読み聞かせ/ 約80名参加

②平和のロザリオ…五大大陸の平和を願って、宣教のロザリオを唱える
日本語グループ9名、英語グループ20名位の参加

8月9日 苦しんでいる全ての人たちへの祈り～テゼの祈りとともに～/17名参加
原爆の日を心に留めながら平和への希望を絶やさないうようテゼの祈りを唱える。

8月11日 ①DVD鑑賞会『100ばんめのサル』(日本語)/約80名

②ナイジェリア出身信者のインタビュー動画鑑賞(英語)/約130名

③スペイン語ミサ後、平和のロザリオを唱える /約10名

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

なかなか終結に至らないロシアとウクライナの戦いやイスラエルによるガザ地区への攻撃などのニュースに、私たちは心を痛め、一日も早い世界の平和を願わずにはいられないでいる。世界の平和を望みつつ、まずは自分の身近な人、隣人のための平和を願うこと、祈ることから始めたいと感じた。今年、信者である仲間が自らの命を絶つというショッキングな経験を通し、私たちのもっと身近なところで苦しんでいる人の平和を特に祈りたいと思ったからだ。そして、多くの方に日々平和について感じ、考えてもらえるように色々な計画を考えてみた。7月中旬から祈りの用紙を準備。個々に自由に平和への祈りを書いて頂くよう呼び掛けたり、『すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り』を聖書と典礼の小冊子に付け、皆さんの目に付きやすいように配布したりした。平和旬間が特別という訳ではなく、日々の生活の中で、平和について感じ、祈ることが大切なので、今後も教会のなかで常に平和への希望、願いを発信していけるようにしていきたい。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ・色々なことにチャレンジしてみたが、もっとたくさんの方の興味を引ける平和旬間行事にできれば良かった。しかしながら、テゼの歌とともに捧げられた祈りの会やロザリオの祈りは、その場にいた方々の祈りが一つになったように感じとても良かったので、来年からも継続できるようにしていきたい。
- ・各言語グループが別々に行事に取り組むのではなく、もっと共有できる形を来年からは取入れたいと思う。今年はそうできなかったのも、せめて、英語グループが撮影したナイジェリア信者の方のインタビュー動画の鑑賞は日本語グループでも機会を見つけてほしいと思う。
- ・今年の平和旬間のテーマが昨年よりも更に踏み込んだものになっており、平和への道を切り開く

ための行動をどう取っていくか？というところまで問われていたかと思うが、そこまで深めることができなかった。

5 参加者の思いや感想

- ・子ども達が自分たちで選んでくれた紙芝居は、多くの方にわかりやすい内容で、日常のささいな意見の行き違いやもめ事、けんかなど、自分たちの生活を顧みながら観ていただくことができたと思う。また、子ども達が読んでくれたこと自体がとても和やかな雰囲気となった。本人たちも紙芝居を読む練習をし、皆さんの前で読むことで、達成感を得られたようだ。今後も機会があればぜひ協力してもらいたいと思う。
- ・平和祈願ミサの中で、『平和は考えるものではなく、作るものだ』と説教のなかで神父さまが話してくださったことがとても印象に残った。自分を取り巻く環境の中で、自分たちにできることから平和を実行できるようにしたいと感じた。
- ・平和旬間行事が毎年恒例となっているので、事前に余裕をもって計画を練る事ができれば良かったのだが、結局、計画書提出の間際になって焦ることとなってしまった。内容をもっと吟味するべきであったかもしれない。(DVD 作品の選択など) その中で、ロザリオの祈り、テゼの歌とともに祈る時間を少人数ながら共に交わる良い空間をもてた事はとても良かったと思う。
- ・宣教のロザリオは、本来は教会の周りを歩いて取り組みたいと思っていたが、暑さを避けるため、小聖堂内で行なった。オリンピック開催中でもあったので、まさに五大大陸の平和を心に置きながら、祈ることができ、とてもよい時間を持てた。参加者が少なかったことが非常に残念だった。
アピールの方法など次回に向けて改善したい。
- ・テゼの歌とともに祈る機会を持てた事は、非常に良かった。初めての取り組みのため、色々配慮しなければいけない事があることや、スペースの使い方、段取りなどすべて自分たちにとっては学習となった。テゼの祈りが世界大戦時の国同士、キリスト者同士の分断からの和解と一致をもたらすためにスタートしているものだという事なので、私たちの心を平和への祈りに自然に導いてくれていたと感じた。今後も平和旬間行事の一つとして継続できれば良いと思う。



◇大阪北地区 河北ブロック 枚方教会

1 開催日/場所/参加人数

8月12日(月) / 枚方教会 聖堂にて / 34名

2 企画の具体的な内容

「祈りの集い」: テゼの祈りでの祈りの形式で永井博士の言葉とテゼの歌と「うたといのり」を混じえて行いました。

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

小教区の皆が参加出来る事とは考え、共同祈願を取り入れた。

以前の平和旬間行事の候補を検討中、「お祈り」が出ていたので取り入れた。

平和旬間の期間だからこそ「お祈りの会」を開きたかった。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

ミサ中のお知らせで、早めの告知をしてくださり、これから平和旬間が始まるという事を信徒さん達に伝わったのが良かった。

信徒の一人ひとりが平和旬間を意識してロザリオリレーしたのも良かった。

5 参加者の思いや感想

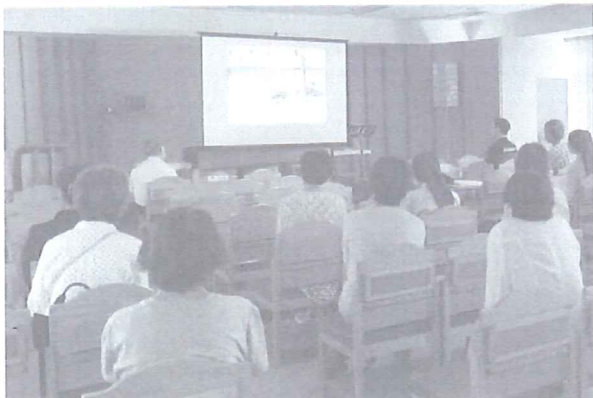
「祈りの集い」に参加された方は毎年やった方が良いとの声をもらった。

共同体の一致を感じた。



◇大阪南地区 阿倍野ブロック 大阪田辺教会

- 1 開催日/場所/参加人数
8月11日(日) / カトリック大阪田辺教会 / 35名
- 2 企画の具体的な内容
絶えることなく戦争が起こっている人類の歴史を鑑みて、私たちは平和について何ができるのかを考える機会を設けるため、今回はDVDアニメ「おかあさんの木」を鑑賞することにした。
- 3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
太平洋戦争において、我が国でも310万人以上の尊い命が犠牲となった。国民の士気を下げずに一致団結して戦争に邁進させるという施策のため、国民は戦争に協力せざるを得なかった。その結果として、全ての国民がお国のためにと戦争に総動員されるようになったが、このような不条理な歴史を決して繰り返してはならない。
- 4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
戦争の悲惨さを、特に若い人たちに伝えていくことが極めて重要であり、その中で信仰との繋がりを通してどのように伝えていくのかも考えていかなければならない。今回の平和旬間行事に参加したことにより、平和について改めて考える機会を得ることができた。
- 5 参加者の思いや感想
DVD鑑賞の後の分かち合いの中で、身内の人から聞いた戦争の歴史や参加者それぞれの思いを聞くことにより、このような集まりが大切であることに改めて気付かされた。実際に戦争が起こりそうになった時、反対の声を上げるには、どうすればよいのかを、教育の場、家庭の場でも考えていかなければならない。そして、いざという時、声を上げることのできる社会にしていくため、いろいろなどころで繋がりを持てるようにしていきたい。



◇大阪南地区 阿倍野ブロック 藤井寺教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) / 藤井寺教会聖堂/ 約30名

2. 企画の具体的な内容

7月から信徒の皆さんに各自が考えた平和のお祈りを短冊に書いてもらい、地球の絵を描いた模造紙に短冊を貼り、当日 祭壇に飾りました。

当日は9時30分より、平和祈願ミサ・チョンディン・ハイ神父司式。

10時40分からヨアキム・グエンバントウェ氏による「私と私の戦争体験」の講演・質疑応答。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

教会のミサにベトナムの方がたくさん参加されていますが、言葉が違うため、なかなか交わりができないので、日本人がもっとベトナムの事を知る必要があるのでは…と思い、ハイ神父様に紹介していただきました。人種や言葉が違って、相手を理解することが平和への第一歩と思い、計画しました。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

今年の平和旬間は特に暑かったが、平和についてじっくりと考えることができて良かった。日本では平和が当たり前の状況で、その中にどっぷり浸かっているので、改めて平和について、戦争について、本当に大丈夫なのか関心を持つことが大事だと気づいた。

5. 参加者の思いや感想

- ・ヨアキム・グエンバントウェさんのボートピープルにならざるをえない思い・苦しみが少し理解できた。
- ・ボートピープルで30日間食料が無く、海をさまようことは誰でもできない事だ。
- ・貨物船に助けられたのは、神様のお恵みだと感じた。
- ・宗教の弾圧は、いつの時代にも、世界のどこかであることを意識しないとイケない。
- ・今の日本は自由で平和であることを神様に感謝している。



◇大阪南地区 堺ブロック 堺教会

1 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) 30-40名(ビデオ 講話参加者)

2 企画の具体的な内容

- 8/4(日) ミサ前後に平和メッセージカードを配布
- 8/11(日) 平和祈願ミサ 10:00-11:00 ミサ前後に平和メッセージカードを配布
ミサ後「広島に一番電車が走った」DVD上映
その後で神父様による講話
- 8/15被昇天ミサで奉納(8/4と8/11のメッセージカードを模造紙に添付)

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

できるだけ多くの方の参加を頂けるよう心掛けた

4 平和旬間を終えて全体を通して気づいたこと、良かったこと

- 反省
 - 画面上映がスムーズにいかなく、画像が正規でなかった(事前準備不十分)
 - 始まりと終わりの説明案内が不足した
 - メッセージカードを書いて頂いたが少なかった
 - 1日だけの取り組みにとどまらず2週間通してアピールできないか検討したい
- 例年より参加者がはるかに多かった

5 参加者の思いや感想

(1) ミサ・DVD鑑賞・講和とおおしでの感想

講話の中で「戦争がなぜ起きるのか?それはちょっとした意見の相違から起らないか・・・」の投げかけがあった、なるほどと思った。

人はそれぞれ違う意見を持っていて、それを一つの意見・考えに統一する事は危険だ。なぜなら異を唱えたいと言う自由を奪われる。昔、ヒトラー率いるナチスドイツがそうであったように全体主義の思想が怖い。

意見や考えの完全一致などあり得ない、互いに相手の意見を尊重する事が大事であると・・・

原爆後の広島に一番電車が走った。働き手の男性がいない中、女学生がその代わりに担った。もともと家政高校を目的に新設されたが、軍掌を養成する学校に変わってしまった。原爆ピカドン投下後、廃墟となった街に希望を与える意味で電車を走らせた。それは家族が遺体を捜しに瓦礫の中を行ったり来たり、あるいは亡骸を整理する為の市民の足にも役立った。

しかし、誤解してならないのは懸命に働く女学生の姿を美談で終わらせたり、亡くなった兵士を英雄として神社に祀り、国家の政策であった戦争が正当化してしまう危険性だ。殺したり殺されたり、強制されたりする事は決して望ましい事ではない。

ヨハネパウロ二世は平和を呼びかける為だけに広島と長崎を選んだのではない、将来に対する責任を負う事、二度と繰り返すことのないようにこの場所を示された。

祈っているだけではダメで行動する事が大事だと話されたことが印象的。一人の行動する姿が回りを変えていくのですと・・・



◇ 大阪南地区 堺ブロック 泉北教会

1 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) / 泉北教会聖堂 / 15名

2 企画の具体的な内容

DVD上映会 『夏服の少女たち～広島昭和20年8月6日～』聖堂にて上映、
上映後参加者に、付箋にそれぞれの思いを書きいただき、模造紙に貼付、掲示。

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

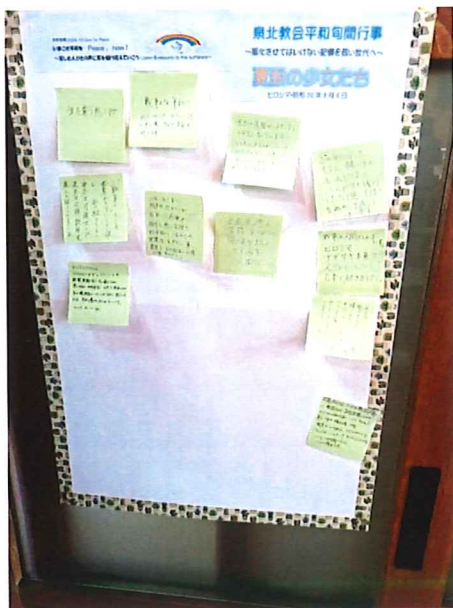
各年代が参加しやすいように、司祭のアドバイスもあり「夏服の少女たち」を上映することに
した。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

次の年代に伝えることの難しさを痛感。
平和への思いを確認する10日間となった。

5 参加者の思いや感想

- 「戦争は人間のしわざです」広島長崎をみて！他人ごとではなく日本で起きたことです。
- 世界の情勢があちこちで不安定になっている今、その先にあることが、
こういう結末なのだとの思いで観ました。平和の大切さを改めて考えました。
- 改めて戦争の恐ろしさを感じます。世界各地に平和を求めて、戦争の恐ろしさを伝え続けて行
動したい。



◇大阪南地区 堺ブロック 金剛教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) ミサ後、21名の参加

8月15日(木) 聖母被昇天ミサ

2. 企画の具体的な内容

平和メッセージカードを皆さんに書いていただき、『手作り平和学習会』を行ないました。特に講師は立てず、参加者全員が講師として、社会活動委員会で準備した資料を輪読し、意見交換しました。

《資料》

- * 司教協議会談話
- * 詩編 85
- * 「正義と平和」
- * 日本国憲法前文
- * 与謝野晶子「君 死に給うことなかれ」
- * 峠三吉の原爆詩集「にんげんをかえせ」等

序 ちちをかえせ ははをかえせ
としよりをかえせ こどもをかえせ
わたしをかえせ わたしにつながる
にんげんをかえせ
にんげんの にんげんのよの
くずれぬへいわを
へいわをかえせ

◇大阪南地区 かわちブロック 布施教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月4日(日) 布施教会聖堂 約40名



2. 企画の具体的な内容

広島巡礼に行った阿倍野教会の若者からの報告を聴く。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

若い世代の人たちの考え、意見、経験談を聞かせてもらうこと。新しい世代の人たちを良く知りたい。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと。良かったこと

若い人達の方がずっと真摯に受け止めている。現代的な視点を持っている。また、未来に向けて平和を作ることを考えておられる。

5. 参加者の思いや感想

①広島巡礼の報告を聞いて

近年はコロナの影響で巡礼はされていないようですが、子どもの頃に参加されて、引き続き大人になってからもスタッフとして活動されていることに感動した。

若い世代が平和について考え、行動されている姿に接し、改めて私も日々平和のために何をしたら良いのかを考えながら生活しなければと思った。

発表されている姿を見て、神様の恵みを感じた。これからも、平和の活動を続けてほしい。

②中高生の広島巡礼が行われていることは知っていましたが、若いリーダーたちが長い期間にわたって関わりを持ち、子ども達に寄り添っていることを聞いて、良く頑張ってくれているなあと思った。

高齢になって活発に行動できなくなった私たちの代わりに、戦争を繰り返すことがないよう、後世に伝えようとしてくれていることに感謝。世界中の子どもたちが苦しむことがないよう、これからも協力し合って頑張ってもらいたい。

③若者を招いての活動は今までになかった試みとして良かったと思う。

④講演して下さってありがとうございました。平和は、人間の根本的に大事なカトリックとして働いてくださいますように。年に一度でも、平和について気づかされることは必要なことだと思う。

頑張ってください。

⑤今回の報告を聞いて、若い世代が平和について考え、行動していること、またそれを企画・実行している皆様に深い感銘を受けた。

私の知らない所に悲しい物語が多くあり、そこで日々平和に暮らしていた人々に突然不幸な出来事が起こり、一瞬にしてその平和な生活が打ち砕かれ、人々の苦しみが始まる。今も語り継がれているその場所に行って、自分の目で見て、耳で聞いて、感じて、その場でお祈りを捧げる。

それはとても良いことで、素晴らしいと思う。

ここでもう一つ思うことがある。現在イスラエルとガザ地区紛争、ロシアによるウクライナ侵攻や。その他、多くの国々で紛争や抑圧が起こっている。

この国の人たちの平和をどう考えるか？ どうしたら解決できるのか？ 私たちはただ祈るしかないのか？ 平和のための行動とは何なのか？

世界の国々で行われている平和運動・集会、平和運動行進、世界平和会議、世界平和のためのミサ等、思いつくことはすべて行われていると思うが、紛争が終わることはない。

一つの紛争が終わっても、すぐにまた同じことの繰り返しが続いている。

神様は人間を試されているのでしょうか？

一人一人が相手の話を聴き、お互いを認め、許し合う心が大切だと思う。相手を殺そうが相手国にミサイルを撃ち込もうが問題解決にはならない。

すべての人間には神様から与えられたいのちがあり、平和に生きる権利がある。

同じ時代に、同じ地球に暮らす人間の幸せを願って、私たちの神・救い主イエス・キリストに祈り続けていきましょう。人間の性(さが)は変えることはできないようだから、平和の問題解決には神さまに祈りつづけることしかないように思う、残念ですが。

神様、人々に救いの恵みをお与えください。アーメン

⑥若い人たちが原爆に関心を持って、少しでも平和のために活動しようという心に感心した。

これからも続けて行かれますように。もっと世界の平和に、目を向けるべきだと思う。

⑦中高生の若い人たちが、平和について関心を持って、広島に巡礼に行かれたことを聞いて、素晴らしいことだと感動した。私たちは各人がそれぞれ平和を願っているが、行動に移せないのが現状。阿部の共愛には青年たちのリーダーが頑張っておられるのを見て、うらやましく思った。当教会でも近い将来、青年たちのリーダーが生まれることを望み、何か協力できることがあるか、話し合っていきたいと思った。

⑧阿倍野教会の青年による広島巡礼報告会を聞いて、巡礼を通して平和の大切さを感じることは大切で重要なことだと思った。

日常生活の中で思考は途切れ、恥ずかしながら閉まっているが、平和旬間を通して、今一度真剣に考えることは大切。

若い世代の参加が少なかったのが残念だが、若い世代が平和について考え行動していることに明るい未来を感じた。我を振り返り、一步を踏み出せるように、日頃から心に平和を感じたいと願った。



◇大阪南地区 かわちブロック 枚岡教会

1. 開催日/場所・参加人数 8月4日(日)/平和祈願ミサ 63名
ミサ後、八尾教会信徒黒澤久夫氏による講演会 約40名
2. 企画の具体的な内容
 - ・平和祈願ミサで祈りをこめて折った千羽鶴を奉納
 - ・「釜ヶ崎支援の流れと今後の課題」長年支援、奉仕してこられた方の話
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
 - ・祈りをこめて折り鶴を折り、目に見える形で平和の大切さを共有する
 - ・世界中で戦争や紛争状態にある国の平和を祈り、支援を続けながらも、国内の身近な場所で困窮している兄弟達の事も忘れないで援助する
4. 平和旬間を終えて全体を通して気づいたこと、良かったこと
 - ・折り鶴は多くの人の手を通してお捧げすることが出来た。
特に、市販の色紙に限らず、捨て難い紙で工夫して折られたものも多かった。
祈りを書いた短冊も下げた。
 - ・同じかわちブロック・八尾教会信徒の黒澤久夫氏の長年にわたる奉仕活動には深い感銘を受けた。
5. 参加者の想いや感想
 - ・主任司祭による、取り組みに対する勧めの言葉もあり、関心を高めることが出来た。喜びでもあった。
 - ・多岐にわたる奉仕活動をしておられる黒澤氏の言葉「社会活動委員や義務感での活動ではなく、神のみ旨を果たす喜び」という言葉に感銘を受けた。



◇大阪南地区 かわちブロック 八尾教会

1. 開催日/場所/参加人数
8/11(日) 八尾教会 120名
2. 企画の具体的な内容
平和のために祈り、平和の尊さを伝える。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
当教会はベトナムの方が多数います。「平和旬間」とは何か。
ルビをふった文章を早くから配布し、理解していただくことに努めた。
4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと
子ども達も交えて、平和への道を共有できた。
5. 参加者の思いや感想
今もどこかで起こっている戦争や紛争で多くの人々がなくなり、傷ついていることを思うとき、
過去の教訓が生かされていない現実に深い悲しみを覚えます。
平和が実現するためにも考え、行動していきたいと思います。



◇大阪南地区

みなとブロック

住之江教会

1. 開催日/場所/参加人数 8月11日(日) カトリック住之江教会 聖堂内 参加人数:31名

2. 企画の具体的な内容:「戦争が生み出す病~(心が壊れること)とは」

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的):{戦争が及ぼす影響~依存との関わり}

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

◎ 戦争で生きて帰ってきてても、心に深い傷を負い自分も家族をも巻き込む。

負の連鎖の恐ろしさを感じました。

◎ 依存症の生の声が聴けて良かったです。教会の中でも、依存症で苦しんでいる人、また、多額の借金で、大変な状態にいる人達がいるかもしれません。その人たちが心の中を打ち明けられる教会共同体であればよいと思います。私の弟も多額の借金で、周りの人たちに迷惑をかけすべて失いました。借金は姉妹で返済し弟は今どこかで生きています。時間があればその後のことを、聞けたらと思います。教会が少しでも心のよりどころになればと思います。重荷を負う人は私のところに来なさいと、イエスがいわれたように、教会なら話せる場であってほしいです。

◎ ご自身の体験談を始め多岐にわたり話をしてくださいました。思いがこもっていて心が痛みました。日常の平和と尊さのありがたみがどれほど大切なものかを感謝しました。

◎ 戦争によって恐怖、飢餓等がストレスとなり潜在意識として残り依存症になったことを学んだ。経験を分かち合う、自分だけではない皆と一緒に。「長崎の鐘」をみんなで大きな声で歌ったこと。平和の祈りを皆と一緒に祈ったこと。

◎ なみはや教会のギャンプルにのめり込み苦しまれたお話はとても興味深く良かったです。

◎ 例年ミサ後、信徒会館に場所を移して行っていたが今年は御聖堂で移動時間等もなく集中して話が聞けたと思います。

◎ 暑い最中でしたが、すべての方々に今日のお話を聞いてほしかったです。特に若い人たちは少なく高齢者が目立ちました。お話し上手で最後の「糸」の歌は大変良かった。

5. 参加者の思いや感想

◎ 自身の体験談ですので、より強く直接に届いてきました。

◎ 今も心に「糸」の歌声が残っています。人、それぞれいろんな状況の中でののだと感じました。本当は話したくない事をみんなの前で話して下さり、涙が出てきました。私の弟が重なり私だけではないと思いながら聞いていました。ギャンプルもお酒もすべて悪いと言い切れません。それらと上手に付き合っていくことが大切だと思います。

◎ 毎日、戦争や紛争、暴力やいじめ、ありとあらゆる、ひどいニュースが流れています。

私たちはいつしかそれに慣れてしまって、まるでTVのドラマを見ているようになっている。

遠くから眺めているのではなく小さなことでも何か出来ることはないのか、神様教えて下さい私は何をしたらよいのでしょうか

◎ 歌と祈りを皆を心を一つにして大きな声で出来たことに、ほっこり平和な気分になった。

◎ 戦争が生み出す病

戦後生まれの私はこの件に関して、もっと関心を持つべきでした。戦場で亡くなられた人は当然ですが、帰って来られた方の心境を思えば、どんなに恐ろしく、苦しく、辛い思いをされた事が計り知れないことです。戦争行くまでは、家族にとってもやさしい人だったが、帰ってきてからは人が変わり、凶暴になり、家族に暴力を振り、恐ろしい人になったとか~。本人も家族もどんなに苦しかったことでしょう。戦争は絶対にしてはいけません。地獄です。

◎ 依存症について、展示や動画等で少し知っていましたが、本人も辛いし家族も、以前、両親と兄がアルコール薬物依存所で愛されたことが少ないという話を聞いた。正しい理解を持って、これからもカジノに反対して行きたいです。

◎ 毎年巡ってくる平和旬間、ウクライナ、カザの戦闘はなかなか収まらず一人一人が自分に何が出来るかを見てほしい戦争のトラウマを抱えている人の気持ち少し理解出来ました。



◇大阪南地区

みなとブロック

なみはや教会

1 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) 12:15~13:30 場所 なみはや教会聖堂 約40名

2 企画の具体的な内容

メインタイトル「いまこそ世界平和を！教会に集まる仲間と共に分かち合う平和旬間」

⇒平和に関する各国からのショートメッセージとメッセージソングを分かち合う

⇒ともに集い、考え、祈る

- ① 中国語メッセージ
- ② ベトナム語メッセージ
- ③ 日本語メッセージ
- ④ 日本語メッセージ「糸」
- ⑤ 英語メッセージソング「We Are The World」
- ⑥ (終わりに) 平和を求める祈り

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・教会に集まる様々な国の方が、今の世界の現状を「どう見て」・「どう感じているか」そして「どう祈るか」～日本人だけにとどまらない「人の声」を大事にしながら企画しました
- ・悲観的な話題にとどまらず、平和旬間のテーマである「今こそ平和を！」の意図を取り組み、未来へ希望が繋がるように、日本語と英語の歌を織り込みました。

4 平和旬間を終えて全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ・参加人数はミサ参加者に比べて多くはなかったものの、イベント終了後の茶話会で振り返りの時間が十分にあり、厚みのある催しとなりました。
- ・また、様々な年代の方との相互理解が深まり、この時期多く報道される、戦時中の映像等について話題に尽きませんでした。

5 参加者の思いや感想

- ・今、ここに、あるがまま。茶話会での「レットイットビー」も平和の歌でした。
- ・音楽は国を超えて、メッセージの力があると思う。心に響く、伝わるものがあった。
- ・聖堂に響く様々な言語を聞いていること。これこそ「平和」の時間だった。
- ・正直なところ、外国人に偏見があったことに気づいた。でも、思い切って話せてよかった。
- ・戦争体験者が減っていくなか、今を生きる、私たちが「声」を届ける大事さを改めて感じた。



◇大阪南地区 玉造ブロック 玉造教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月4日(日) 玉造大聖堂 150名

2. 企画の具体的な内容

10時の平和祈願ミサ、信徒の折り鶴をアートにして奉納。ミサに続き、ホセ神父と信徒で製作編集した「ハイチのマザーテレサ」を16分にして上映。その他、「耳を傾けて」をテーマに、写真・平和メッセージを掲示した。後日、昨年の鶴アートなどを祈りと共に焼却、奉納して終えた。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

悲惨な戦争より、今 日本人が行っている国際貢献を紹介したらと思い、クリスト・ロア宣教修道女会の二人のシスター Sr.須藤昭子と Sr.岡崎茂子が中東、アフリカなどで貧困国の住民の自立に貢献していることを紹介したいと思った。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

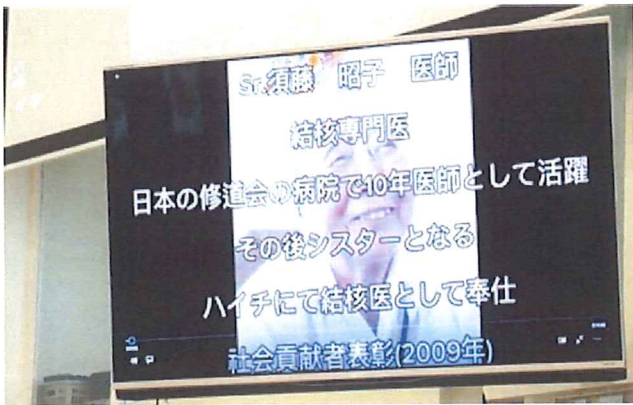
戦後79年「今さら思いださせて・・・」という方もいます。

しかし、日本で今のウクライナなどと同じようなことがあった事を伝承していくことは大切。

人ごとのように平和を思う人たちに命の尊さを訴えるむずかしさを感じます。

5. 参加者の思いや感想

今年はアツサリでしたね、と言われました。



◇大阪南地区 玉造ブロック 生野教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) 生野教会 60名

2. 企画の具体的な内容

平和のメッセージカードの奉納 関西合唱団の平和コンサート

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

合唱団と信徒の皆さんと一緒に歌って、平和への思いを一つにすること。
聖歌「平和の祈り」を合唱。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

今年は新型コロナウイルスが終息したことで、大きな声で平和を祈ることができた。
合唱することで、喜びと感動がありました。

5. 参加者の思いや感想

今年は、平和のコンサートを行い、合唱団とともに、日本人、韓国人、ベトナム人の信徒と一緒に歌ったことで、その日は教会が一つになれた。これからも平和を祈り、教会全体で神様の平和の道具にならないといけない。



◇岸和田地区 いずみブロック 岸和田教会

- 1 開催日/場所/参加人数 8月11日(日) 岸和田教会にて開催 18名参加
- 2 企画の具体的な内容
「イスラエル・パレスチナの歴史を学び、現在の状況を理解し、平和のために祈る」をテーマに、イスラエルとパレスチナの歴史と現状の動画を観賞し、平和のために祈りを捧げる。
- 3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
イスラエル・パレスチナ双方の歴史と現状を理解するため、どちらか一方に偏った見方をしていない動画を選定した。
- 4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
わずかではあるが昨年より参加者が増えた。このことにより、今ガザに関心を持っている人が多いことに気づいた。過去の戦争を振り返り、平和を考えることも大事だが、今現在の紛争や対立を通して平和を考えることも大切だと気付いた。
- 5 参加者の思いや感想
 - 日本人に理解しにくいことだと思うが、キリスト者にとっては、神の救いの計画にも深く関わる事なので、これを機会に注視し続け祈り続けたいと思いました。
 - 非常に心が痛みます。一方、無力な自身も感じます。そこに祈りがあるのかもしれない。
 - 映像でわかりやすく、理解しやすかった。しかし、何もできない、祈るしかできない。祈りが足りないのか?の思いや、もどかしい気持ちがあります。
 - 長い歴史の中に、人々の感情、和解できない人の心、根深い人間の心に、いつかは世界が一つになって、笑顔で人と人の心がつながっていけるようになってほしいです。
 - テレビで報道されている今現在の悲惨な状況を知ることも大切であるが、なぜこのような事態になったのかを理解することも大切であると気づいた。
 - 聖書の背景にもなった土地で、今なお戦争が続けられ、多くの人々が犠牲になっている現状を思い、祈ることができてよかったです。
 - “不治の病”を直そうと、様々な薬や医学が開発され、人ひとりを助けるための努力が行われている一方で、“一度でたくさんの罪もない人々の命を奪おう”ありえない!同じ時代に生きている人なのか?と思います。国の指導者により戦闘を実行している兵士たちに言いたいです。「目を覚まして!!命令する人に反対する勇気を持ってください」と。
 - 平和のために働く人は、キリストの使徒と言われる。平和のために生きる人は、キリストの友と呼ばれる。使徒が平和のために働くことは、大きな共同体の喜びとなる。
 - 言葉だけではなく、祈りと行いで平和のために働けますように。
 - ガザで行われている戦いが、ユダヤ人对パレスチナ人であることを知りました。ユダヤ人が民族ではなく、ユダヤ教を信じていて、母がユダヤ人である人々のことであることも初めて知りました。なぜ父ではないかは疑問に感じました。現在ガザで行われている爆撃が、東京大空襲、大阪大空襲と同じ規模のものということが、大きな衝撃でした。
 - 映像を1回見ただけでは、なかなか理解できない。「互いに愛すること、それが私のおきてである」と神は言われています。その一言に尽きると常に思う。

- 根源は、アメリカ・西欧諸国のダブルスタンダード。ロシアを責めるが、自分たちもガザで同じことをしているイスラエルを支持している。結局、彼らの行動基準は、自国＝自分たち権力側にいる人間の利益。国際社会がこの点を明らかにし、行動しないと出口は見いだせない！
- イスラエル・ガザの争い、ロシア・ウクライナの争い、他の世界中で起きている沢山の争いを、他人事ではなく平和な世界を思い、何か私に出来る行動がないか、祈りのうちに考えています。
- 祈りと話し合いをしてください。戦いを支援する国がなくなりますように。平和式典で長崎市長が招待しない国があったら、その国を支援する国の大使も式典を欠席するという反応をする。話し合いを。
- 人間一人一人は善なのに、なぜ集まると心の底にある欲に負けて戦争を始めるのか？実際の戦争は経験していなく、テレビ、新聞、ネットからの情報しか知りませんが、見聞きするだけで心が痛みます。祈りの力を信じて祈り続けます。Amen。



◇岸和田地区 いずみブロック 和泉教会

1 開催日・場所・参加人数 8月11日(日) 和泉教会聖堂 / 25名

2 企画の具体的な内容

徳島大空襲フィールドワーク報告 DVD鑑賞(45分)

参加者からの報告(2人) 10分

祈りの花束作成 5分

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

大阪高松大司教区になり、あまりにも四国のことが分からないので、
まず四国での戦争のことを学ぶ。

徳島教会と交流する。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

徳島教会と交流できてとても良かった。

徳島県立博物館の学芸員の方に案内していただけて勉強になった。

5 参加者の思いや感想

・戦争は一旦始まってしまうと終わりが見えないので、絶対に戦争を始めてはいけない。

・江戸時代の街並みが全て焼けてしまっている。

大規模な空襲だったことが良く分かった。

徳島に行きたかった。

・知らなかったことが多く勉強になった。

地方都市の空襲について知識がなかったので、貴重な体験だった。

・今もなお不安な日常を送っておられる方々がおられることに、憤りを覚える。

「戦争は絶対ダメ」と強く思った。



《祈りの花束のメッセージ》

- 平和を作っていくのはわたしたちです。
- I'm happy to see the video. Really peace full place thank you for sharing.
- いろいろな写真を見たら昔と今のことが分かります。今愛をみんな持っています。平和と…。
- まずはひとりひとりの心の平和から。
- It's always nice to see where we come film.
- イエス様助けてください。平和になってほしいです。そのために頑張ります。
- わたしたちの中にいてくださる神様とともに「平和」を力強く願います。
- わたしは初めて徳島へ行き、空襲があったことは知りませんでした。すごく心に残りました。
- 平和って何？ みんなで考え直そう！
- 現地に行って、戦争がどんなに悲惨か感じました。昔も今も平和は遠い。
いつか平和が来ますように。
- 戦争は絶対ダメ！
- I'm so lucky with there.
- I want to go Tokushima.
- 皆さんが、世界中の人が、よい心でいますように。
- 悲惨な戦争を2度と起こさないように。今平和であることが当たり前ではない。
- Always keep trusting God's plan for us. Follow her had and keep moving
Forward for us to see the beautiful that God goal to us.
Be right to everyone life. God Bless Love and peace.
- 1日も早く、世界に平和が来ますように。
- 主よ、平和をわたしたちに。
- 平和が来ますように。
- 主キリストの愛、平和。
- 平和な日本をありがとう。
- O Lord , give me your peace !
- 今も争いで苦しんでおられる方々が大勢おられます。1日も早く、平和な日々が送れますように。
共に祈りましょう。
- 平和がいつまでも続きますように。
- I was go to Tokushima.
- キリストの平和が全世界に！
- 平和は自分と相手の存在を大切にしている関係が必要な根源。

(編集担当：英文は原文のままです)

◇ 岸和田地区 紀泉ブロック 泉南教会・岬教会・紀の川教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月11日(日) 岬教会 53名
2. 企画の具体的な内容
 - ・平和祈願ミサ (インターナショナルミサ)
 - ・モザンビークにおける「井戸掘削プロジェクト」(岸和田地区、紀泉ブロックの募金による)の経過報告と現状報告(主任司祭:イポリト・ヴィダ神父)
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
今回初めて、ブロックの合同開催とした。3教会が協力し合いながら、平和について「祈る・聴く・考える」ということを行うことによって、より一層「キリストを頭とした教会の平和を作る共同体・共に歩む共同体」の意義を深めたかった。
4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと
コロナの感染者が何人も出たこともあり、参加者は予定人数よりも少なかったが、合同開催になり参加者の国籍数も広がった。そして、自分たちが協力したこと(井戸募金)がモザンビークの人たちの生活の助けとなったことを具体的に知ることができて良かったと思う。
5. 参加者の思いや感想
想像を超えるモザンビークの悲惨ともいえる現状を聴き、世界中には平和に程遠い国がたくさんある事を知り、悲痛な思いがした。自分の身の回りから、まず平和を考え築くことを第一歩にして、そこから心をより広げながらいろいろな方面に、何か働きかけることができれば良いなと感じた。



◇岸和田地区 りんくうブロック 貝塚教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月4日(日) 貝塚教会 33名
2. 企画の具体的な内容
世界各地において戦争による危機や貧困に苦しむ人々の現状を、ユニセフによる映像によって考える。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
災禍にあえぐ人々に早急な救援物資を送り、少しでも現状から解放されるよう食糧、医療、その他必要な物資の援助をすること
4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
遠い過去から現在、未来において、戦争は絶えず繰り返されるだろうし、平和とは何かを改めて考えさせられ、具体的に私たちが今何をすべきか、判断する良い機会となった。
5. 参加者の思いや感想
人祖以来、人間は戦いを繰り返して来たので、決して止めることはないだろう。私たちは平和を求める以前に、神を愛し、人間の罪の赦しと解放のために遣わされたキリストを信じ、その教えと導きに謙虚に従っていくべきです。



◇岸和田地区 りんくうブロック 泉佐野教会

1. 開催日／場所／参加人数

開催日：2024年8月11日（日） 場所：カトリック泉佐野教会

参加人数：約120名

2. 企画の具体的な内容

8月11日のミサの中で実施しました。

第1部 「耳を傾けよう」

① 平和を実現する人は幸い（戦後70年司教団メッセージより）

「平和への道」のみが、平等、正義、隣人愛を現実のものとする道です。

すべての人の心の中に、平和の知恵、正義の力、兄弟愛の喜びが注がれるよう祈ります。

② 憲法第9条―世界の宝―の招きを深める（憲法分科会報告集より）

世界では軍事化が進み、開発に掛かる軍事費が企業につぎ込まれ、戦争遂行の妨げとなる「人間らしい心」をなくす訓練をしています。また、そこから派生し戦争ゲームが開発され、私たちの身近でも負の影響を与えています。

その軍事費を、世界で困難に直面している人々に使える事ができれば平和が実現します。わたしたちが人間らしい心を持ち続ける事ができるよう祈ります。

③ 高齢化する仲間とともに歩む（現在における高齢化問題について）

最近横行している詐欺の内容と、そのターゲットになりやすい高齢者について

単身生活者が増え、悩みの相談ができず、不調に気づかれない状況に置かれています。そのような中で、私たちが出来る事は何かを考えます。声掛けや小さな親切をおこなう、思いやりを持って支え合い、共に歩いていく事を祈ります。

④ シナピスの活動（2019年教皇フランシスコの広島メッセージより）

「シナピス」の言葉の意味と理念を知り、活動内容に関心を持っていただきます。

◎各メッセージのあと、共同祈願と聖歌「平和の祈り」を歌います。

第2部 「祈りをこめて」 折り鶴を作りました！

できた折り鶴を集めてパンや献金とともに奉納しました

ミサのあとで折り鶴を花束にして、しばらく聖堂内に飾ります

3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

平和旬間行事に参加する全員が「傾聴し、それに応える」内容となるよう考えました。

- ・カトリック教会が発信しているメッセージから、いま世界で起こっていることや自分たちを取り巻く状況について、あらためて考えていただくものとなりました。
- ・気持ちをひとつにして折り鶴を折ることで、祈りの気持ちを形にしました。
- ・平和旬間期間中も折り鶴を聖堂内に飾る事で、一過性のものにならないようにしました。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ① 知っているようで「自分には直接に関係がない」とよく見たり考えたりしないで見ている事柄について、改めて考える機会になった。
- ② ミサの中で行われることで、静かな気持ちでメッセージを聴くことが出来た。
- ③ 折り鶴が祈りの気持ちを現すものとなり、花束になることで気持ちをひとつにすることができた。
- ④ 折り鶴を折った後のみんなの顔が「笑顔」になっていたこと。

5. 参加者の思いや感想

- ・ 第一部の話しを聞いて、改めて気づかされた事があった。
- ・ お話がゆっくりで、スライドがあってわかりやすかった。
- ・ 「平和旬間ミサ」の内容が、共同祈願として行なわれた事がとても良かった。
- ・ 話に耳を傾けて、全員で「共同祈願」と「平和の祈り」を歌ったのが良かった。
- ・ 久しぶりに「鶴」を折った。折り方を忘れていたが、周りの人が教えてくれて折り鶴を完成させる事ができた。
- ・ 外国人や折り方がわからない人も、スクリーンや見本で大きな折り紙を折っているのを見て真剣に取り組んでいた。
- ・ 行事で折った「折り鶴」をすぐに子供達が奉納してミサを進めたのが良かった。
- ・ 「シナピス」ということばが「からし種」と知って興味深く思った。



◇岸和田地区 りんくうブロック 熊取教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月4日〈日〉 熊取教会 35名

2. 企画の具体的な内容

ミサの中で、平和の動画を見て、祈りを捧げる。

3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

現在も戦禍の中で生命の危険にさらされ続け、悲惨な生活を余儀なくされている子どもたちからのメッセージを聴くことで、かけがえのない平和の大切さを再認識する。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

ビデオ鑑賞と祈りによる平和旬間行事でしたが、戦争に関するニュースがほぼ毎日飛び交う中、一刻も早い平和の訪れを祈る姿は、信徒一同大変気持ちがかもっていました。

5. 参加者の思いや感想

かつて敗戦の中から復興した日本であるがゆえに、いかなる理由があろうとも二度と戦禍を繰り返してはならないという思いを共有できた。



◇和歌山地区

紀南ブロック

御坊教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月15日(木) 御坊教会聖堂 4名

2. 企画の具体的な内容

8月15日は聖母被昇天祭ミサ、死者のための祈念ミサ、平和祈願ミサを行った。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

少人数でもできる範囲で、無理をせずにできることを心がけた。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

大きなことはできなくても、私たちにできることをすれば良い・・・ということ。

5. 参加者の思いや感想

ミサ後、よろこんで帰路につきました。



◇和歌山地区 紀北ブロック 和歌山紀北教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月11日(日) / 和歌山紀北教会聖堂・信徒会館 / 25名
平和祈願ミサ(参加者は約130名)後、ホールで開催

2 企画の具体的な内容

*平和旬間中に唱える共同祈願を配布し、その間の平日ミサへの参加者はその中で祈り、ミサに与れない場合は個人的に祈るよう依頼した。信徒の共感を得られ、心合わせて祈ることができた。

*平和の集いでの発表:「生活の中から身近な平和を考える」

＋始まりの祈り: 広島平和アピールでの聖ヨハネ・パウロ2世の祈り

- ① 携帯電話: 携帯電話のリチウムイオン電池には「コバルト酸リチウム」が使用されている。コバルトはアフリカのコンゴ共和国で多く産出され、子どもたちが採掘を担っている事実を知ったことから調べ、私たちが日頃、身近に手にしている物の工程や背景にある社会的な問題、その地域の平和が脅かされている環境などについて学ぶ機会とした。
- ② 流通: 翌日配達などで便利となった流通の一端を担う Amazon に潜入調査したあるジャーナリストからの情報(倉庫・配送・労働環境など)を元に、その実情を知る機会とした。
- ③ 食料: 今回はバナナにスポットをあて、「甘いバナナの苦い現実」と題して、生産地域の実情等の一端を知る機会とした。

3 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・毎日の生活で私たちは便利さや豊かさを求めるあまり、その向こう側にある国の事情や苦しんでいる人がいることに気づかなかったり、無関心を装っているのではないか?
- ・戦争や紛争になれば終わりが見えない。しかし、その小さな火種は私たちの中にあるのではないか・・・そんな気づきから企画した。
- ・身近な生活と私たちが思い描く平和を探るためにも、まず実情を「知る」ことから。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ・平和のために、特に祈る機会を持つこと、意識することができたことは良かったと思う。
- ・カトリック平和旬間の司教談話のテーマ「無関心は生命を奪います」をメンバーで一読しそのことも意識しながら、今回の企画を踏まえていけたことが良かった。
- ・まず知ること、啓発という意図を持っていたが、これから何をするか、次にどう進めていくか、実情を知った上で深めていくことの難しさを感じている。

5 参加者の思いや感想

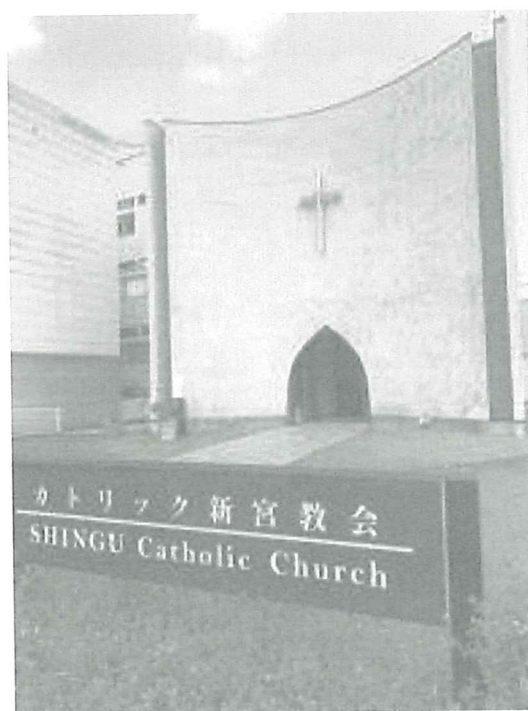
- ・普段、忘れていたことを気づかせてもらった。
- ・コーヒー豆、カカオ豆を調べたときも、子どもが労働力に使われていた。世界中の子どもたちが子どもらしく生きられる日が一日も早く来ることを祈りたい。
- ・あるシスターの会で、フィリピンのバナナを生産者の方々の労働に見合う適正価格で買い取ろうと暫く続けたが、いろいろな事情で長く続けることができなかった、支援の難しさを感じた。
- ・いろいろな問題提起はあったが、深く掘り下げられていない。

- 食べ物を輸入するとコストがかかる、だから大量生産する。日本の消費者に安くきれいなバナナを届けるために生産国の環境に負荷をかけ、生産者の方々に苦しい思いをさせているということを知ることができた。これからは一歩進むために見える目、聞こえる耳を持ちたいと思う。
- 集いに参加する人が少なくて残念。今回、子どもたちが参加していない。
- すぐに商品が手元に届いたり、スーパーにはきれいな商品が並んでいるのが当たり前とっていたが、その陰には、それぞれの所で働いている人たちの苦労があり、その上で私たちの暮らしが成り立っていることがよくわかった。
- 今回は和歌山紀北教会の屋形町聖堂で行われたが、これらの資料や説明を今福・海南・古屋の各聖堂でも紹介してほしい。



◇和歌山地区 紀南ブロック 新宮教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月15日(木) 20名
2. 企画の具体的な内容
 - ① 8月1日～8月31日に、主日ミサと毎日のミサの中で、「核兵器のない世界実現のために」の祈りを捧げた。
 - ② 8月15日の平和祈願ミサの中で、ウクライナ・ガザ・スーダン・ミャンマー・北朝鮮・全世界の平和を祈り、賛歌 アニュス・デイ を歌った。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
日々、苦しんでいる世界の人々を心に留めるように。
4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
世界で起こっている戦争や紛争終結のために、ともに心をひとつにして祈ることができたことで、今後も世界の情勢に目を向け、祈りつづけたいと思った。
5. 参加者の思いや感想
苦しむ人たちに思いを巡らせることができ、それを日々の祈りの中で願いたい。



◇愛媛地区 中予ブロック 松山教会、道後教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月4日(日) 松山教会 約50名

2. 企画の具体的な内容

2022年から松山教会でミャンマー募金をし、信徒、修道会から募金が寄せられた。

募金はミャンマーのドミニコ会を通じて、主にジャングルで避難生活を送っている人々、ジャングルに仮設の学校を作り運営していること等、募金の使われている様子を皆さんに報告する事。

また、ミャンマーがどのような国であるか現状を知ってもらう事。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

募金が集まってからも、しばらくはミャンマーに送金する手段から探さなくてはならない状況で

なかなか報告ができなかったが、それくらい今のミャンマーへの支援は配慮が必要な状況であった。

私たちの支援が本当に必要としている人たちに届いている事を知っていただきたい。

4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

平和旬間には平和祈願ミサを捧げているが、その中で何を祈り、何を祈願するのか、一人一人が自覚することが大切である。

募金は大勢の協力によって皆の善意が集まり、実際に学校が建てられ、運営されている事を知ることができて良かった。

5. 参加者の思いや感想

今の日本では考えられない軍事政権下での暮らしには、平和と自由がないこと、そして平和のためには具体的な行動が必要であることを強く感じた。



◇八幡浜教会（愛媛地区）

1. 開催日/場所/参加人数

8月15日（木）16:00~21:00

カトリック八幡浜教会聖堂 /14名

2. 企画の具体的な内容

16:00~17:00 ミサ

17:00~18:00 ベトナム語聖歌練習

18:00~19:00 懇親会

19:00~21:00 八幡浜港花火観覧

3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

ベトナムからの技能実習生を中心に、日本とベトナムの国を越えて平和を祈る集いとした。

8月15日は、平和を祈る八幡浜市花火大会があり、これを観覧しながら市民と交わる集いとした。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

ベトナムからの技能実習生は、日本の終戦記念日を中心とする盂蘭盆会うらぼんえの慣例を知らない。日本では、聖母被昇天の日までの3日間に仕事が休みという意味がよく分からない様子であった。カトリック教会の聖母被昇天祭と関連して。平和旬間を理解していただくために、この休日を利用した集いを行なうことは意義深いと感じた。

5. 参加者の思いや感想

ベトナムからの技能実習生が3日間の休みを有意義に使うことになり、ゆっくり週日を活かすことができ、楽しかったとの感想が得られた。



諏訪名誉司教（写真中央）と懇親会

◇香川地区 桜町教会

1. 開催日/場所/参加人数 8月11日(日) 桜町教会 100名
2. 企画の具体的な内容
主日ミサを「平和祈願ミサ」とし、会衆一同で祈りを捧げた。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
国内の被災地、ウクライナ、イスラエル。パレスチナに対してとりわけ、強く祈った。
4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと。
ミサ後に、ミャンマー人の結婚式があったが、ミャンマーも国内状況が良くないことに気づいた。
争いによる悲しみは、国内で平和を享受している私たちのすぐ近くにあると感じた。



◇香川地区 番町教会

1. 開催日/場所/参加人数

- ①8月2日(金) 桜町教会 30名
- ②8月11日(日) 番町教会 30名

2. 企画の具体的な内容

- ①桜町教会・番町教会合同の初金ミサ後
- ②番町教会 集会祭儀の後

平和旬間にあたり、教会の信者の皆さんと祈り、歌い、平和について考えました。

《桜町教会》平和を祈り 小さなコンサート

- ・アベ・マリアの祈り ・朗読「ピカドン」…誰も知らなかった子どもたちの原爆体験記
- ・教皇ヨハネ・パウロ二世 広島「平和アピール」より
- ・歌「長崎の鐘」 ・アッシジの聖フランシスコ 平和の祈り

《番町教会》平和旬間の祈りと歌

- ・マザーテレサの平和の祈り ・共同祈願
- ・歌 平和を願う祈り ・平和のための祈り(アッシジの聖フランシスコ)

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

指導司祭からの要請により、桜町・番町合同の初金ミサ後の平和旬間の行事計画を、番町教会で考えた。

教皇ヨハネ・パウロ二世の平和メッセージを読んだことにおいて、教会として平和を皆で祈る時をつくること。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

何度聞いても、教皇ヨハネ・パウロ二世の平和メッセージが色あせず、メッセージ性がとても強い。

5. 参加者の思いや感想

平和について、続けて何かをし続けることが大切。



左写真：番町教会
右写真：桜町教会

◇香川地区 坂出教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月4日(日) 坂出教会聖堂 80名

2. 企画の具体的な内容

「平和祈願を含めた主日のごミサ」

神父様を含めた評議会で、「お説教の中、共同祈願として祈る事」を決めました。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

戦争をなくすること、核兵器の使用禁止(第2の広島・長崎とならないように)

そして、日常では、差別をなくすこと。

私欲が争いを生むことなどの意識を高め、平和を大切にしたい。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

社会・国家へ関心を向ける人の減少を感じる。

子どもの時からの意識付けが大切なので、家族で話し合ったり、学校での取り組みを多く持ってほしい。

5. 参加者の思いや感想

歴史認識の大切さを感じます。



◇香川地区

伊予三島教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月11(日) 伊予島教会聖堂 17名
2. 企画の具体的な内容
平和の祈りを短冊に書き、オリーブの枝に付けて、皆でお祈りする。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
個人個人の平和への祈りを明確にして、平和への意識を高め、神にその思いを捧げる。
4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
ふだんは深く考えないで過ごしているが、改めて現在も続く戦争や、そのための武力による人類への加害行為をやめる働きかけをしていかなくてはいけない。
5. 参加者の思いや感想
フィリピンの人たちといっしょに、心を合わせて世界平和への祈りができたのは、意義があり、短冊を書くことで、考えるきっかけとなり、子どもたちは楽しみながら参加できた。



◇徳島地区

1. 開催日/場所/参加人数

8月12日（月）、8月13日（火） 徳島教会 延べ35名（部分参加含む）

2. 企画の具体的な内容

第1日目は、徳島の伝統芸能”阿波踊り”を体験し、参加青年たちが交流を深めた。

第2日目は、『ウクライナ避難民青年からのメッセージ』をテーマに平和講演会と「霊的対話による分かち合い」、平和祈願ミサを捧げた。

3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

ロシアのウクライナ侵攻から2年半が経過し、平和への道を見失ったかのような状況が日常化している今、当事者であるウクライナ避難民青年の生の声に耳を傾け、共に祈り、平和のために私たち一人ひとりに何ができるのかを一緒に考える。

4. 平和旬間を終えて、全体を通して気づいたこと、良かったこと

今回、避難民マキシムさんご家族をお招きして阿波踊りを一緒に楽しんでいただきたいと考えていたが、7月末にウクライナに一人残る祖母が思わしくなく、彼の母と妹は急遽ウクライナに帰国した。日本に一人残った彼も、心労と学業、アルバイトなどもあり体調を崩してしまい、マキシムさんの準備してくれた資料をもとに支援の会の有村氏が後援会の代役を務めてくださった。今回は来られなかったけれど、彼の置かれた現状の危うさや一人で背負うには重すぎる自分や国の未来に対する不安などが十分に伝わった。

5. 参加者の思いや感想

戦争が始まった当初、戦場の悲惨な映像を目の当たりにして、とてもショックを受けましたが、戦争が長期化する中、徐々に戦争に対する意識が希薄化する自分がいました。

そんな中、ウクライナから日本に避難されて来られたマキシムさんやご家族のお話を準備していただいた資料により、伺うことができ、現地の人々の体験を肌身にかけて知ることができました。事情により、マキシムさんご家族がこの度、徳島にお越しになれなかったことはとても残念でしたが、また次の機会にお会いできることを願い、マキシムさんへのお礼のお手紙を書くことにします。



◇高知地区 中島町教会

1 開催日/場所/参加人数

- ・ 8月11日（日）/中島町教会/30名

2 企画の具体的な内容

- ・ 平和祈願ミサ

（6月30日～8月10日迄に各自が記入した“平和の祈り”のカードを奉納）

3 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

- ・ 平和の祈りカードを捧げる中で、平和について考え、祈る機会や時間、分かち合いを増やしたい。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ・ 平和旬間の取り組みとして、来年以降も平和の祈りカードを継続していきたい。
- ・ 平和ミサの司式に、四国カトリック会館館長の松浦神父様をお招きした。
絵本を使っでの平和への力強いメッセージを聞くことができた。

5 参加者の思いや感想

- ・ 聖体拝領後にテゼの祈りの時間を持った。朗読と沈黙、ギター伴奏での歌は落ち着いた雰囲気の中で祈ることができよかった。
- ・ 平和の祈りカードを信徒から集めたが、その中の祈りのいくつかを共有し、共に祈る機会があってもよかったのではないか。
- ・ 平和ミサ以外でも、平和旬間期間中に、平和、戦争、紛争などについて考える機会を作れたらよかった（ビデオ鑑賞、分かち合いなど）



◇高知地区 安芸礼拝所

1 開催日/場所/参加人数

- ・8月17日（土） / 安芸礼拝所 / 2名

2 企画の具体的な内容

- ・平和祈願ミサ（各自が記入した“平和の祈り”のカードを奉納）
神父様のお説教で、お互いが神から愛されている存在だとの説明をしていただいた。

3 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

- ・イスラエルとハマスの戦いやロシアとウクライナの戦いには皆心を痛めている。
戦争を経験した親の話を聞いて育ってきた我々は戦争には反対。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ・自分を大切に生きるべきだし、他人を自分と同じ様に大切にすべきだ。
お互いが支配する関係ではなく、気遣いあう関係を作る。

5 参加者の思いや感想

- ・テレビなどで戦争の映像を見る度に皆の心が傷ついている。
- ・若い人達に過去の戦争の話を伝えるべき。

◇高知地区 江ノ口教会

1 開催日/場所/参加人数

- ・ 8月11日（日）/江ノ口教会/20名

2 企画の具体的な内容

- ・ 平和祈願ミサ（各自が記入した“平和の祈り”のカードを奉納）
- ・ 各祈願は、「平和を願って」を使用。共同祈願も独自の物を使用し、マザーテレサの平和の祈りを皆で唱えた。奉献文は、ゆるしの奉献文 二【人類の和解】を使用。

3 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

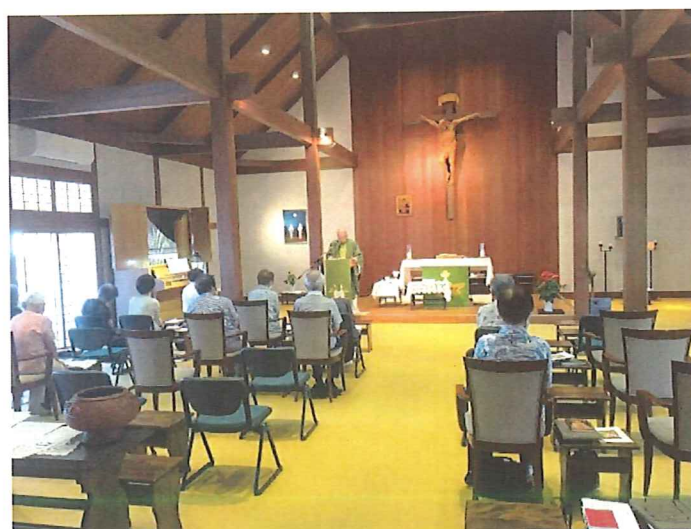
- ・ 世界の平和が脅かされている中で、改めて、過去も振り返りながら、平和への願いを新たにしていくことをみんなで共有したいと考えた。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ・ ガザ、ウクライナの子どもたちのおびえた眼、姿を見て祈るだけでは足りない気がした。戦禍の中の子どもたちに直接何かできなくても、一人ひとりが信仰と行動で平和を築いていきたいと思った。

5 参加者の思いや感想（一部）

- ・ 低迷する国際情勢や難民の問題など多くの苦難が、私たちを取り巻いています。このような時に、自分の平和の願いをメッセージとして捧げることは大事だと思いました。微力でも平和な世界を目指せると信じて。



◇高知地区 赤岡礼拝所

1 開催日/場所/参加人数

- ・8月11日（日）/赤岡礼拝所/ 7名

2 企画の具体的な内容

- ・平和祈願ミサ（各自が記入した“平和の祈り”のカードを奉納）
- ・各祈願は、「平和を願って」を使用。共同祈願も独自の物を使用し、マザーテレサの平和の祈りを皆で唱えた。奉献文は、ゆるしの奉献文 二【人類の和解】を使用。

3 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

- ・世界の平和が脅かされている中で、改めて、過去も振り返りながら、平和への願いを新たにしていくことをみんなで共有したいと考えた。

4 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと

- ・祈るだけでは足りないという思いもあるが、この様に皆でミサに与り祈る中 平和への行動を起こす力と思いをいただけるように思えた事。

5 参加者の思いや感想（一部）

- ・小さな集まりではあるが、皆で平和を祈ることができるのは大事だと思いました。

◇高知地区

中村教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月11日(日) 15名
2. 企画の具体的な内容
平和祈願ミサを行う。平和のメッセージを込めた祈りをそれぞれが作成してミサの中で捧げる。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
 - ・ 準備の段階から、平和について考える。当日参加できなくても、祈りのメッセージで参加できる。
 - ・ 人間が引き起こす戦争がいかに愚かであるかを知る。何よりも、神様が創造された世界を壊しつくしていることを知る。
 - ・ 戦争で亡くなった方々のために祈る。
 - ・ 世界を巻き込む戦争が二度と起こらないように祈る。
 - ・ 戦いを続けている国が、一日も早く平和の道に導かれるように祈る。
4. 平和旬間を終えて 全体を通して気づいたこと、良かったこと
 - ・ 突然、当たり前前の生活が奪われることの中で、自然が引き起こす災害とは違い、人間が引き起こす戦争は、人間の力で止めないといけないこと。
 - ・ 平和がいかに当たり前前ではないか、みんなと心をつなげて協力しないとつくりえない事に気づかされました。
5. 参加者の思いや感想
平和について一人ひとりの思いをメモして、一人一人が心に留め、考えることができました。戦争は絶対にしてはならない事、対話が大切である。



カトリック中村教会



祭壇横のルルドの聖母像



キリシタンとして知られる土佐一条家第4代当主の一条兼定公が、1543(天文12)年に、ここ中村で生まれています。

「平和旬間報告」から見たこと、感じたこと

『平和旬間報告集』編集スタッフ

《戦争の残酷さ・悲惨さを知ろうとする姿勢》

今年の平和旬間のテーマは、特にウクライナやガザにおける悲惨な状況を意識したものでした。連日伝えられる悲惨なニュースに心を痛み、いくつかの小教区で「今起きている悲劇から目をそらさず、真実を知りたい」と講演会が行われました。「歴史や過去は変えることができませんが、今起きている悲劇から真実を知ることが大切」、「無関心ではいけない」、「戦争体験者が戦争の悲惨さを若い世代に伝えてほしい」という感想が寄せられていました。その反対に、若い世代の広島巡礼の報告を聞いて、刺激を受けた「おとな」たちもおられました。

また、戦争体験の「後遺症」ともいえる様々の依存症が、本人のみならず家族をも不幸にしていることを伝えたいと、「依存症の当事者から話を聴く会」を実施した小教区もありました。そして、「教会が、苦しんでいる人がなんでも打ち明けることができる場所になりたい」と結ばれていました。

《外国人との共生・支援に努力している教会》 小教区の報告から抜粋しました。

- ・日本人・韓国人・ベトナム人の信徒と一緒に歌ったことで、教会が一つになれた。
- ・各言語ごとのミサがあり、別々に行事に取り組んできたが、今後は共有できる形を取り入れたい。
- ・日本語だけではなく、中国語・ベトナム語・日本語・英語でのメッセージで企画した。
- ・これまでベトナム人信徒への配慮が足りず、ベトナム語での記載や連携の必要を感じた。
- ・ベトナムの方に「平和旬間」のことを理解していただきたいとルビをふった文章を配布した
- ・ミャンマーからの難民さん（仮放免中）との関わりは4年目。“顔も知っている私の隣人”として平和旬間行事がお互いを身近な存在として繋ぎ合う場となっている。
- ・ベトナムの方が多いので、交わりをしたいとポートピープルの方の話を聴いた。
- ・四国の教会では、2年前から「ミャンマー募金」を始めて、ジャングルで避難生活をしている人々やジャングルの中に作った仮設の学校の運営をミャンマーのドミニコ会を通じて支援している。
- ・徳島教会では、様々な国の青年たちが阿波踊りを体験し、国を超えた交流を深めた。翌日は、ウクライナからの避難民の青年から届いたメッセージを分かち合った。
- ・日本人、ベトナム人、フィリピン人等国际色豊かな共同体で、共同祈願は日本語・ベトナム語・タガログ語で行い、バーベキューで分かち合いをした。
- ・モザンビークにおける井戸掘削プロジェクトの継続をした。
- ・フィリピンの人たちと心を合わせて、世界平和への祈りをした。

《教会外への働きかけが大切……》

- ・原爆忌に教会の鐘を鳴らすことは、小さな教会にもできること。夏休み中の若者に鐘つきをお願いすることで、原爆忌を伝えている。
- ・映画上映会を外部にも知らせたので、教会外の方も来てくださった。呼びかけることは大切。
- ・信徒が書いた平和祈願メッセージを木に吊るして、外を通る方にも見ていただけるようにした。

《平和憲法を守る！》

- ・日本国憲法は、アメリカに押し付けられた憲法ではないことを知った。
- ・憲法9条を守るために、私たちに何ができるかを考えなければならない。
- ・今、軍備が必要だという声が高まっているが、もっと外交の力でできることを考えてほしい。
- ・ガンジーの「非暴力は人間に与えられた最大の武器である」、キング牧師の「非暴力は勇気ある人々の生き方である」に励まされた。

それぞれ工夫を凝らした各小教区からのご報告をいただき、ありがとうございました。今回は特に四国の教会からの報告が楽しみでした。他の小教区の活動を今後の平和活動への取り組みの参考にしていただけましたら幸いです。また、そのことを通じて新たな交流が生まれることも期待いたします。

大阪高松大司教区

〒540-0004

大阪府大阪市中央区玉造 2-24-22

電話：06-6941-9700 FAX：06-6946-1345